

はじめに

訪問看護認定看護師は、我が国の「地域包括ケアシステムの充実」を目指し、住まい・医療・介護・予防・生活支援を一体的に提供し、医療と介護の連携の推進を図る役割を期待されています。また、在宅療養者・障害者が療養の場を移行する際に、医療機関と在宅とのつなぎ役として、円滑な退院調整のケアマネジメントができるよう、訪問看護の質の向上を図り、多職種と連携しネットワークをうまく構築することも求められています。

それを実行するため、今年度も訪問看護認定看護師協議会は、日本財団様からご支援を頂き、研修会や情報交換会を充実し、全国の訪問看護認定看護師と協力し合い、地域において積極的に活動してきました。

今年度は総会・交流会それぞれで同時開催研修会を開催し、参加者も増え盛況でした。

1回目は地域共生社会の実現に向けた新たな訪問看護認定看護師の役割として、訪問看護認定看護師の質を考える講演とグループワークを開催しました。2回目では、「特定行為研修制度を見据えた新しい訪問看護認定看護師制度」により、特定行為についての知識を深め、認定看護師としての役割が再認識できたとの意見がありました。また、交流会では情報交換する良い機会になり、地域に戻り他の訪問看護師にも伝えていきたいとの意見があり大変好評でした。

ブロック活動については、各ブロックの会員数の違いや、ブロック分けが複数県にわたる広域なため課題も異なり、その地域ごとに特殊性を生かした取り組みが行われました。地域包括ケアシステム構築に向けては、地域ごとで訪問看護認定看護師が協力し地域へ発信できるよう方策を考える良い機会となりました。研究事業は1件の採択を行い訪問看護の質評価に取り組んでいます。

また、ホームページ作成や新たなチラシを作成し、全国の訪問看護認定看護師の活動のPRを行なったことで、訪問看護認定看護師の役割が理解でき多職種からも連携の機会が増えたとの評価をもらっています。

そして今年、新たに開始したのは、全国の訪問看護師に向けたコンサルテーション事業です。本年度はプレとして5件コンサルテーションを実施し、内容は、訪問看護の多機能型として、ナーシングデイを開設する際の知識や運営方法の指導や新卒看護師の教育システムの指導など訪問看護認定看護師の知識や経験を生かしたコンサルテーションとなり、大変好評で継続してほしいとの意見がありました。これは2020年に向けての、アドバイザー事業への移行を検討する上での今後の良い材料となりました。

以上のように2018年度は前年度に比べて認定看護師の役割が認識され、活動の幅も広がり社会貢献できた年となりました。

ここに2018年度の報告書を取りまとめさせていただきましたが、当協議会の活動を、会員をはじめ多くの関係者の方々にご理解いただき、さらなるご支援、ご協力、そして忌憚のないご意見をいただくと幸いです。

末筆になりますが、当協議会がこのような活動が出来るのは日本財団様のご支援あつてのことと存じます。この場を借りて、深く感謝申し上げます。

2019年3月吉日

一般社団法人 日本訪問看護認定看護師協議会

目 次

はじめに

第1章 事業の概要	1
1 事業の目的	
2 事業の目標	
3 事業のスケジュール	
第2章 事業の活動報告	3
1 ブロック活動	
(1) 北海道ブロック	
(2) 東北ブロック	
(3) 北関東ブロック	
(4) 関東ブロック	
(5) 南関東ブロック	
(6) 東海北陸ブロック	
(7) 近畿ブロック	
(8) 中四国ブロック	
(9) 九州ブロック	
2 研 究 活 動	2018年度研究活動報告　－近畿ブロック－
3 その他の活動	
(1) 実態調査	
(2) コンサルテーション事業	
第3章 事業の評価	55
1 ブロック活動	
2 研 究 活 動	
3 その他の活動	
(1) 実態調査	
(2) コンサルテーション事業	
別添資料	59
1 会員数及び9ブロック図	
2 理事会・事務局名簿	
3 理事会組織図	
4 理事会及び総会等の開催	

訪問看護認定看護師数（日本看護協会 認定部資料）

1 事業の目的

日本の高齢化は上昇の一途をたどり、国は団塊の世代が75歳となる2025年を目途に、地域包括ケアシステムの構築を進めている。これには、従来の病院完結型の医療から地域完結型の保健・医療・介護・福祉への転換が必須であり、その中心的役割を担う訪問看護の発展に期待が寄せられている。

当協議会は、全国の訪問看護認定看護師が在宅医療・看護・ケアの質の向上と専門性を高め、国民が安心して在宅療養できるよう支援することを目的に設立され、2014年10月1日に一般社団法人化した。

訪問看護認定看護師の組織として変革する社会において先駆的活動に取り組み、訪問看護の質の向上と実践力の強化を図ること、ならびに研究活動を通して訪問看護のエビデンスを示し訪問看護の発展に繋がる活動を行うことを目的としている。

2 事業の目標

- (1) 訪問看護認定看護師として、実践力の強化や、相談・指導能力の向上を図るための専門性の高い研修会の実施（全国9ブロックで年間2回ずつの実施を計画）
- (2) 社会的背景や地域の課題に対して先駆的取り組みをしている事例を共有できる交流会・研修会の実施（年2回の実施を計画）
- (3) 訪問看護ステーションの機能強化・多機能化へのコンサルテーション・アドバイザー事業
- (4) 訪問看護認定看護師が実践している看護活動の実態調査（訪問看護認定看護師が機能強化や多機能化、新人教育・人材育成にどのように貢献しているかを全国調査する）
- (5) 訪問看護の質の向上に資する研究活動の支援（日本訪問看護認定看護師協議会として学会発表・論文発表）
- (6) 日本訪問看護認定看護師協議会の組織力を強化する

以上の事業によって、訪問看護認定看護師の社会的意義を高め、地域包括ケアシステムの構築に貢献できる人材を育成する。具体的には、地域における多職種へのコンサルテーション、看護師の施設間の垣根を越えた看護連携マネジメント、エンドオブライフケアの推進など。結果、地域住民がその人らしく最期まで暮らせる社会の構築に寄与する。

3 事業のスケジュール

本事業は、以下のスケジュールで行った

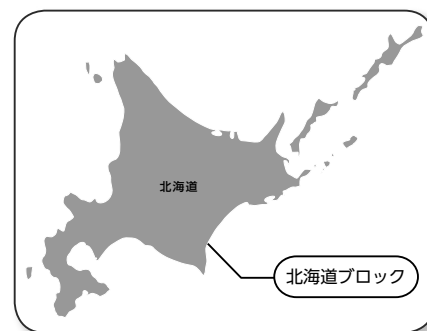
年	月	日	内容	ブロック名	場所
2018	4	7	ブロック会議	北関東	ジョナサン千葉駅前店
	5	12	ブロック会議	北関東	公財) 日本訪問看護財団
		13	第1回理事会	—	公財) 日本訪問看護財団
		27	ブロック会議	南関東	えがおナーズケアステーション
	6	2	第5期 定時総会	—	CIVI 研修センター新大阪東
			(臨時理事会)	—	〃
			第1回理事・ブロック長合同会議	—	〃
			ブロック会議	中四国	〃
			ブロック会議	近畿	〃
	8	19	第2回理事会	—	公財) 日本訪問看護財団
	9	1	ブロック会議	近畿	訪問看護ステーションハートフリーやすらぎ
		9	研修・交流会	南関東	地域交流施設 ONE FOR ALL 横浜
		15	研修会	東海北陸	名古屋市熱田区在宅サービスセンター
	10	13	ブロック会議・研修会	北関東	ビックエコーお茶の水店
		20	ブロック会議・研修会	北海道	孝仁会記念病院 会議室
	11	3	ブロック会議	東北	宮城県看護協会 訪問看護総合センター
		10	交流会 2018	—	ベルサール新宿グランド コンファレンスセンター
		17	研修・交流会	九州	福岡県教育会館
	12	27	第1回コンサルテーションミーティング	—	公財) 日本訪問看護財団
	2019	1	12	研修・ブロック会議	東北
12			研修会	北関東	ルームス 第3会議室
26			研修会	関東	SOBIZGATES (加瀬会議室) 会議室 A
2		2	研修・交流会	近畿	滋賀県草津市立市民交流プラザ
		3	第3回理事会	—	公財) 日本訪問看護財団
		3	第2回理事・ブロック長合同会議	—	〃
		16	ブロック会議	南関東	鶴見区医師会 会議室
		23	ホームページ制作ミーティング	—	会津若松市東山温泉 会議室
3		16	研修会 (予定)	東海北陸	名古屋市熱田区在宅サービスセンター
		17	ミニセミナー「ナーシングデイ開設のいろは」(予定)	—	フクラシア丸の内オアゾ
		24	研修・交流会 (予定)	中四国	岡山市オルガホール

※2月末時点での取りまとめのため、3月については予定

1 ブロック活動

(1) 北海道ブロック

正会員数 8名 (ブロック長：池田ひろみ氏)



名称： ブロック会議

1. 実施日時： 2018年10月20日(土) 10時～13時、17時～18時

2. 会 場： 孝仁会記念病院 会議室

3. 参加人数：計 3人 (北海道)

4. 活動内容の報告

(1) 活動の目的

研修会 (ワーキング) の準備、振り返り

(2) 具体的な内容

- 研修会 (ワーキング) の目的およびプログラムの内容の確認
- 会場設営・準備
- 研修会 (ワーキング) 開催後の振り返り

(3) 活動の効果

- ブロック会議を事前に予定していたが、地震の影響のため会議開催ができず、メールを使用して、アンケート結果や講義資料、GWのテーマなどの意見交換を行った。結果として、当日のブロック会議では、会場設営や資料の準備など、具体的な内容の確認を行う場として活用することができ、研修 (ワーキング) もスムーズに開催、進行することができた

研修会 (ワーキング) の振り返り

- 研修 (ワーキング) 全体としては、高評価だったが、「アンケート結果だけを提示されても、良く分からなかった」という意見もあり、アンケート結果の提示方法については、見直しが必要。また、アンケート結果から、どう読み解くかについて、今後検討必要。
- 今回のワーキングから、24時間対応を確立できていないステーションや24時間対応に不安を感じている訪問看護師は、どのような支援を必要としているかイメージを掴むことはできた。今回は、訪問看護認定看護師がいる地域での研修会 (ワーキング) としたが、今後、他の地域でもデータを収集していくことも必要との意見あり。
- 次回は、北見地域での研修 (ワーキング) を企画していく予定。

名称： 研修会

1. 実施日時： 2018年10月20日(土) 13時～17時

2. 会 場： 孝仁会記念病院 会議室

3. 参加人数：計 3人 (北海道)

4. 活動内容の報告

(1) 活動の目的

24時間対応を確立できていないステーションや24時間対応に不安を感じている訪問看護師は、

どのような支援を必要としているのか知る
(利用者も 24 時間対応を行っている看護師も安心できる体制づくり)

(2) 活動の効果

- 研修会（ワーキング）での講義や GW は、緊急時の対応への不安や心配の軽減につながったというアンケート結果より、目的を達成するために効果的であったと思われる
- 事前アンケートの 24 時間携帯当番で負担に感じている事について質問した項目では、1 位（時間的な制約）、2 位（漠然とした拘束感）、3 位（日常生活に気をつかう）と 1 位～3 位は対応そのものより、自分達の生活に関する項目が上位となっており、利用者への対応は 4 位であった。
しかし、当日の GW では、事前アンケートの 1 位～3 位の項目についての発言は全くなく、4 位の利用者への対応についての不安や心配についての意見がほとんどであった。
- 講義だけではなく、GW を通し、自分の言葉で不安や心配なことを他者に伝え、共有できたという体験も緊急時の対応への不安や心配の軽減につながったことが理解できた。



～研修の様子～

(2) 東北ブロック

正会員数 11名 (ブロック長：及川真喜子氏)



名称：平成30年度 第1回東北ブロック会議

1. 実施日時：2018年11月3日(土) 12時30分～15時30分
2. 会場：公益社団法人 宮城県看護協会 訪問看護総合センター (宮城県仙台市)
3. 参加人数：計4人 (青森県1人・福島県1人・宮城県2人)
4. 活動内容の報告

(1) 活動の目的

- ①ブロック会員の活動状況を共有し、会員各位の今後の活動に役立てる。
- ②次回研修開催に向けた企画会議を行う。

(2) 具体的な内容

- ①「訪問看護認定看護師によるアドバイザー派遣事業」における「訪問看護認定看護師による個別相談会」に参加した3人のメンバーからの報告を受けた。
- ②次回開催予定のコンサルテーション研修について

(3) 活動の効果

会員各自の活動状況を共有できた。病院や県の研修講師として訪問看護について啓発活動を活発に行っていた。しかし地域や病院は、退院支援や在宅医療が進んでいない現状があった。また、新人育成に積極的に関わっていた。アドバイザー事業の報告では、初めて参加した会員は学びが多かったとの報告があった。今回不参加の会員も2回目のブロック研修で学びを深め次年度以降チャレンジできたらよいとの意見があった。

(4) その他

今回も参加者が4名と少人数であった。参加者も毎回同じメンバーになっている。それぞれが組織の中で重要な役割を担い業務が多忙な環境にある。しかし、ブロック会議を通し情報交換や研修を行い認定看護師としてスキルアップにつなげていけるようにしたい。集まるための地理的条件を解消できるアドバイスをいただきたい。

名称：平成30年度 東北ブロック研修会

1. 実施日時：2019年1月12日(土) 13時～15時
2. 会場：公益社団法人 宮城県看護協会 訪問看護総合センター (宮城県仙台市)
3. 講師：宮城大学看護学群成人看護学教授 菅原よしえ氏
4. 参加人数：計7人 (青森県2人・岩手県1人・福島県2人・宮城県2人)
5. 活動内容の報告

(1) 活動の目的

訪問看護認定看護師としてのコンサルテーション活動状況を振り返り、自身の課題を克服しスキルアップにつなげる。また、認定協議会事業のアドバイザー事業へ参加できる学びとする。

(2) 具体的な内容 別紙資料参照

はじめに会員各自が地域で行っているコンサルテーション活動を振り返り現状を共有した。その結果、「様々な分野の方々から相談を受け対応しているが、それがコンサルテーションといえるかどうか疑問があった。迷っていた。」という意見に集約された。それを受けて講師は訪問看護師のフィールド、自分のポジションを振り返り整理することから始められた。それによって各々が自分の立ち位置を理解し、どういう立ち位置で相手と向き合っているかを認識できた。そこから改めてコンサルテーションのプロセス、コンサルタントに必要な能力、コンサルタントの能力を学び直していった。また、コンサルテーションを進めるうえでは、コンサルティの能力も大切であることに気づいた。

(3) 活動の効果

4県、7名の参加で研修会を開催できた。会員が悩みながら活動しているコンサルテーションに関する研修だったため、それぞれが自身の振り返りと学び直しにつなげることができた。大友理事より、アドバイザー事業のマニュアル作成に役立てていきたいとの意見も出された。今後はより具体的な事例検討等で学びを深めたいとの意見も出された。継続して学びたいとの意見から次年度の活動でも研修を企画することになった。

(4) その他

今回は参加者が7名とこれまでで最多となった。研修に興味があり学び直したいと思っていた内容だったとの意見をいただいた。研修の企画も会員が参加したくなるような工夫が必要であることを再認識した。

また、今後数年は仙台を拠点とし開催は可能だが、将来的に開催県、場所の検討をしていくことを確認した。



名称：平成30年度 第2回 東北ブロック会議

1. 実施日時：2019年1月12日（土） 15時～16時
2. 会場：公益社団法人 宮城県看護協会 訪問看護総合センター（宮城県仙台市）
3. 参加人数：計7人（青森県2人・岩手県1人・福島県2人・宮城県2人）
4. 活動内容の報告

(1) 活動の目的

次年度活動計画の検討

(2) 具体的な内容

次年度研修計画：コンサルテーション研修

時期：平成31年7月、11月の土曜日午後から（日程は講師と調整）

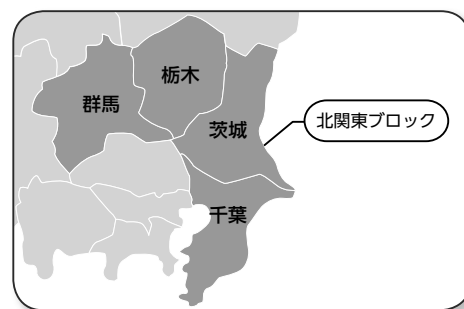
内容：コンサルテーション 事例検討

(3) 活動の効果

今年度に引き続きコンサルテーションについて継続学習をしていくことに全員一致で決まった。また、コンサルテーションを学び続け、認定協議会のアドバイザー事業に協力できる人員増につながることを期待する

(3) 北関東ブロック

正会員数 26名 (ブロック長：杉原幸子氏)



名称： 第1回 北関東ブロック 事前役員会議

1. 実施日時： 2018年 4月7日(土) 11時～12時30分
2. 会場： ジョナサン 千葉駅前店
3. 参加人数： 計3人 (千葉県3人)
4. 活動内容の報告

(1) 活動の目的

1. 前年度理事・ブロック長会議の報告
2. 役員交代に伴う事務引き継ぎ
3. 2017年度の北関東ブロック活動の振り返り
4. 2018年度の北関東ブロック活動の計画(案)検討

(2) 具体的な内容

1. 前年度理事・ブロック長会議の報告 (佐藤前ブロック長より)

2017年度定時総会資料を用いて、前年度の活動状況について参加者で情報共有。他ブロックでの活動を参考にブロック主催の研修会開催や看護研究などにも取り組みたいが、活動地域が広域であることから実現は難しい状況がある。今後も他ブロックの活動について情報を適宜得ながら、可能な限り負担の少ない方法を継続して検討していくこととした。
2. 役員交代に伴う事務引き継ぎ

ブロック活動実施ガイドラインなどの資料を用いて、ブロック長、ブロック長補佐の役割や具体的な調整事項(事務手続き含む)について確認、共有した。ブロック長は協議会と北関東ブロック間の調整役割を、ブロック長補佐は主にブロック会員への連絡伝達役割を担う。
3. 2017年度の北関東ブロック活動の振り返り

2回のブロック会議、役員会を開催。ブロック会員が参加しやすいよう東京を開催場所としたが、移動に伴う負担があり参加者は限定された。会議では各ブロック会員の実践活動について共有し、ブロック会員間の交流を図ったことで、それぞれの活動に生かすことができた。ブロック会員が自主的に参加したいと思えるような工夫について考えることが今後の課題である。千葉県看護協会主催の訪問看護基礎研修会の講師をブロック会員に依頼・調整した。研修参加者数は2016年度100名から2017年度106名に増加、就業者数は8名から11名に増えていた。今回講師や事業所管理者との直接交流の場を設けたことで、研修会参加者が訪問看護をより身近に感じてくれたのではないかと。また講師が研修会の計画実施評価表を作成、次の研修会講師に情報提供したことで、講師役となったブロック会員自身も内省もよる成長がみられた。訪問看護師の確保・定着に寄与すること、認定看護師としての役割発揮に向け、次年度も千葉県看護協会の協力をいただいで継続実施していきけるとよい。
4. 2018年度の北関東ブロック活動の計画(案)検討
 - ・活動目標 北関東ブロック会員の拡大や参加を促し、会員間の連携・協働体制を強化する
地域の訪問看護職員増員や質向上をめざし、学び交流する場を提供、地域に貢献する
 - ・活動計画 前年に従い年2回(5月・10月)のブロック会議、役員会議を実施

・次回予定	研修会や交流会も合わせて実施できるとよい	
	会議名	ブロック会議
	日 時	5月12日(土曜日) 14時～
	開催場所	東京 ①(使用可能であれば) 訪問看護財団ビル ②(①が難しければ) お茶の水ビックエコー
	内容	ただし、参加者によっては開催場所変更を検討する 前年度活動の振り返り及び今年度活動計画 ・2018年度訪問看護基礎研修会の概要伝達及び講師調整 ・10月ブロック会議の計画 レクチャー「看護倫理(仮)」 各ブロック会員の実践活動の報告や交流

(3) 活動の効果

- ・協議会活動、2018年度の役員の役割や行動について共有し、再確認できた
- ・2017年度の活動を振り返り、2018年度の活動計画(案)が具体化できた



～会議の様子～

名称：第1回 北関東ブロック会議

1. 実施日時：2018年5月12日(土) 14時～16時10分
2. 会 場：日本訪問看護財団 会議室
3. 参加人数：計6人 (千葉県5人・群馬県1人)
4. 活動内容の報告

(1) 活動の目的

1. 2017年度北関東ブロック活動の振り返り(意見交換)
2. 2018年度北関東ブロック活動内容(計画)の検討
3. 北関東ブロック会員同士の活動内容の共有及び交流(期待される役割や行動への理解を深める)

(2) 具体的な内容

1. 2017年度の北関東ブロック活動の振り返り

①ブロック会活動：活動の頻度、内容、効果、課題など意見交換

2017年度は2回のブロック会を開催し、ブロック会活動に関する意見交換、個々の活動報告の共有や交流を行った。自己を振り返りその後の活動に役立てることができた。今後も継続したい。

- ・参加人数は毎回会員数の半数以下で、新たな参加者はあるが固定化されていた。
- ・会員が参加したいと思えるよう、実践活動・知識習得や技術向上につながる内容を考えていく必要がある。

②千葉県看護協会主催の訪問看護基礎研修会

「H29年度訪問看護基礎研修会アンケート結果（要約）」（資料1）内容の共有と意見交換

- ・研修会参加者数、就業者数は共に増加があり、就業につながった。また交流会は効果的であった。参加者は、訪問看護に興味を持ったが、知識・技術の不足や一人訪問の不安を感じていた。楽しさややりがいのほか、伝え方に配慮して大変さや苦労なども伝える必要がある。
- ・今回、新たに「研修計画・実施・評価表」（資料2）を用いて、研修会担当者が内省できるようにした。それらと講義資料を次回研修会担当者などに送り、準備に役立てることができた。

2. 2018年度の北関東ブロック活動内容（計画）の検討

①ブロック会活動：活動目標や活動内容は前年度を踏まえて同様に継続する

活動目標

- ・北関東ブロック会員の拡大や参加を促し、会員間の連携・協働体制を強化する
- ・地域の訪問看護職員増員や質向上をめざし、学び交流する場を提供、地域に貢献する

活動内容

- ・年2回（5月12日、10月13日予定）ブロック会議及び役員会を開催する。
- ・ブロック会議に引き続きの研修会を10月に計画する。
- ・会議では、個々の会員の実践活動の報告、訪問看護に関する情報の共有や交流を行う。

②訪問看護基礎研修会：実施概要の共有、今年度実施計画（講師調整）、留意事項の確認など

- ・研修内容などは、講師となった者が全体責任者となり、研修会開催前に講義資料を送付、研修会の進行などを含め調整する。
- ・昨年度同様に研修担当者は「計画評価表」を作成・送付する。

3. 北関東ブロック会員同士の活動内容の共有及び交流（期待される役割や行動への理解を深める）

①認知症患者への対応に関すること

- ・認知症初期集中支援チームの活動について、訪問看護利用者を多職種チームにつなげる、あるいは逆に訪問看護につなぐなどで関わるとよい。訪問看護では、認知症の引きこもりなどの早期発見や早期支援、倫理的な問題への対応について考えていく必要がある。

②実践活動に関すること

- ・常に人員不足があり職員確保に苦勞するが、ステーション内だけに限らず、地域の人材育成についても力を入れていきたい。
- ・急性期病院では在院日数短縮化などで病棟看護師は十分な患者支援ができないまま退院となっているため、必要な人に支援ができる体制を整えたい。
- ・看多機開設や地域のケアマネが訪問看護導入を考えられるよう関わればよい。
- ・訪問看護師への精神的な支援やマニュアル等の整理で、職員が定着、増加に転じた。県内の認定看護師のつながりに今後取り組みたい。
- ・地域の訪問看護師同士の交流は定期化、今後も継続しつつ病院看護師と訪問看護師の交流の場の拡大をめざしたい。

(3) 活動の効果

- ・2017年度の活動を振り返り、それらを基に2018年度の活動計画（案）が具体化できた
- ・訪問看護基礎研修会での講師の質の均一化に向けて会員が自主的に取り組み、徐々に形になっ

てきていることを再認識できた。

- ・他者の活動を知り交流を図ったことで、活動へのヒントを得て、勇気・元気をもらうことができた。

(4) その他

- ・会議参加者が固定化される傾向にあることや、会員への連絡が容易ではないなどの課題がある。
- ・参加しやすいように「参加依頼文」などを発行することはできないのか。



～会議の様子～

名称： 第2回 北関東ブロック会議

1. 実施日時： 2018年10月13日(土) 14時～16時30分

2. 会 場： ビックエコー御茶ノ水店

3. 参加人数：計 6 人 (千葉県5人・栃木県1人)

4. 活動内容の報告

(1) 活動の目的

- ・前期活動の振り返りと後期・次年度活動に関する検討
- ・北関東ブロック会員同士の活動内容の共有及び交流(期待される役割や行動への理解を深める)

(2) 具体的な内容

1. 千葉県看護協会主催訪問看護基礎研修会前期実施の振り返り

- ・今年度研修会について、講師の研修計画実施評価表(4回分)と研修会参加者アンケート結果(3回分)の内容を参加者で共有、後期の修正に向けた。
- ・講師をつとめる認定看護師に研修評価表の早期提出を促した。結果次の講師が活用し、研修計画に生かすことができている。訪問看護の実際の写真、事例、訪問看護新入職者の看護師の動画の評価が高い。継続する。

2. 今年度のブロック研修会開催に向けての計画立案

- ・ブロック会議の参加者数が少なく参加者もほぼ固定化されており、年2回の研修会開催は正直負担が大きい。会員が参加しやすい仕掛けも何か必要か。
- ・今回初参加の会員が海外視察研修に参加あり。年明けの1月か2月に研修報告会を実施し、認定看護師としての役割行動を振り返る機会とする。対象は北関東ブロック会員とし、会場は参加者の状況で検討する。

3. 今後の活動や実践活動に関することの共有

会員の参加や新会員入会を促すために、近隣者間で声を掛け合う。

(3) 活動の効果

- ・訪問看護基礎研修会での講師の質の均一化ができていたことを再認識できた。
- ・ブロック研修会が計画できた。

名称： 北関東ブロック研修会

1. 実施日時： 2019年1月12日（土） 13時30分～16時30分
2. 会 場： 東京都千代田区神田三崎町3-4-10 庄司ビル5階 ルームス 第三会議室
3. 講 師： 山崎佳子氏
4. 参加人数： 計 7人 （千葉県6人・群馬県1人）
5. 活動内容の報告

(1) 活動の目的

認定看護師として新たな知見を得て実践力を高める
(英国の認知症ケアの取り組みを知る)

(2) 具体的な内容

「イギリスで学ぶスコットランド認知症ケア視察団」参加報告
地域で生活することを基本とした高齢者ケア施設の役割やサービス内容、運営などを知る

(3) 活動の効果

日本では認知症になると家に閉じこもりがちで社会との関わりが少なくなる印象を受けるが、対象者を個（人）として尊重し、社会との関わりを常に維持しながら生活することの重要性を再認識できた。また、ケア提供においてはノーリフトが原則となっていることもわかった。こうあるべきとこれまでの経験や環境から固定概念を持ってケアを提供しがちであるが、本当にいいのかどうか内省をしながらケアを提供することの必要性や、客観的な視点から様々な情報を得てケアに生かすことの重要性を参加者全員で共有できた。

(4) その他

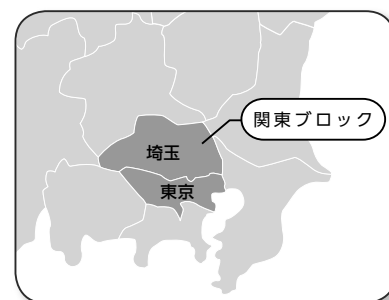
会議室用の会場は環境的にも静かで落ち着いて学ぶことができた。プロジェクターなども借りることができ研修効果が高まった。



～研修会の様子～

(4) 関東ブロック

正会員数 59名 (ブロック長：廣川直美氏)



名称：関東ブロック 研修会

1. 実施日時：2019年1月26日(土) 13時～17時

2. 会 場：SOBIZGATES(加瀬会議室) 会議室A

3. 参加人数：計19人 (東京都17人・埼玉県2人)

4. 活動内容の報告

(1) 活動の目的

難病の政策や課題、訪問看護師に望まれている事を学ぶ。
社員から実践報告を受け、自身の活動に役立てる
社員同士の交流を図る

(2) 具体的な内容

テーマ「難病政策と課題・訪問看護師に期待する事」

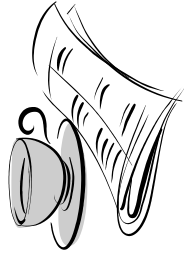
1. 「難病政策と課題・訪問看護師に期待する事」を東京都在宅難病担当者より講義を受け、学びを深める
2. 「難病患者の支援の実際」について社員2名からの発表を受けた。退院調整部門と訪問看護ステーション勤務者から発表であり、実際の様子を学ぶことができた。
グループワークでは、個々の取り組みを共有し、実践のヒントを得た

(3) 活動の効果

今回は参加者が以前と比べると多かった。アンケートからも分かるように、日々の実践の中で様々な制度理解が必要になってることから、会員のニーズに合っていた。グループワークでは4人ずつのグループとなり、認定看護師の先輩、後輩の交流ができ人脈が広がった。

(社) 日本訪問看護認定看護師協議会

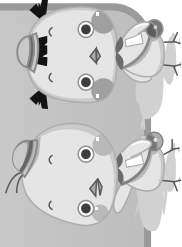
NEWS



Supported by  日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

TOPICS

入会案内 研修開催のお知らせ



関東ブロック 2018.12 発行

日本訪問看護認定看護師協議会

2009年8月に全国の訪問看護認定看護師が「実践」「指導」「相談」の経験・知識を持ち寄り、相互の交流を図ることによって、より一層、在宅医療・看護・ケアの質の向上と専門性を高めていけるよう「日本訪問看護認定看護師協議会」として設立。
2014年10月には「一般社団法人化」され、更なる発展を目的としています。

事務局

公益財団法人日本訪問看護財団内

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-8-2 日本看護協会ビル 5階

電話：03-5778-7008 FAX:03-5778-7009

E-mail: kyogikai@jvnf.or.jp

ホームページアドレス http://www.jvnf.or.jp/post_13.htm

《関東ブロック委員》

ブロック長：廣川直美（東京） ブロック委員：田中千賀子（東京）

井上京子（東京）、山田富恵（東京）、佐伯聡子（埼玉）

ブロック活動

関東ブロックの今年度の活動では平成31年1月26日（土）に「難病の制度等」についての研修会を企画致しました。介護保険よりも学ぶ機会が少ない難病の制度等について、東京都の在宅事業担当の担当官に直接ご講演を頂けました。また、同じ認定看護師の仲間からの発表も企画致しました。発表頂く方にはポイントもつきます！皆様の日々の活動の一助になれば幸いです。奮ってご参加くださいませ！

入会方法

入会のお申込みは「公益財団法人日本訪問看護財団ホームページ」内のバナーをクリックして「入会のご案内」からお申込み下さい。正会員の入会金 5,000円 年会費5,000円 合計10,000円です。2年目以降は年会費 5,000円です。

入金確認後正会員とし登録され、会員証がお手元に届きます。研修の際は会員証をご持参ください！

研修会当日の入会も可能です！！

活動報告



1) テーマ:「ファシリテーションの基礎」日時:平成29年11月19日(日)

講師 NPO法人 ジャパンマック 代表理事 岡崎 直人 先生



2) テーマ:「地域での活動報告」～実践報告～日時:平成30年3月10日(土)

訪問看護認定看護師協議会会員の以下4名から実践報告

☆佐藤久美子氏・鬼和子氏・インクラン裕美氏・下岡三恵氏

研修に参加して「ファシリテーションの基礎」(写真左)はグループワークなどの実践を通して学び、「活動報告」(写真右)では報告者は自身の活動の振り返りや発表の練習の機会になりました。参加者は仲間の活動報告から自らの実践のヒントをつかむ機会になったようです。グループワークでは仲間との交流の機会にもなり楽しい時間となりました。

活動は皆様の会費及び日本財団の助成金により行っています

平成30年度 研修会のお知らせ

開催日予定日:平成31年1月26日(土) 13:00～

テーマ「難病政策と課題・訪問看護師に期待する事」

講師:東京都福祉保健局保健政策部疾病対策課(在宅難病事業担当)

課長代理 **土屋 哲也氏**

*研修の詳細については別紙案内を確認下さい。

学会・研究会 ～平成31年2月開催予定～

☆日本フットケア学会

2019年02月09日・10日 [代表者]佐藤 元美(新城市民病院)

[会場]名古屋市・名古屋国際会議場

[連絡先]新城市民病院腎臓内科・人工透析センター

URL: <http://www.jsfootcare.org/ja/> / E-Mail: footcare17@mtoyou.jp

☆癒しの環境研究会

2019年02月24日 [代表者]高柳 和江(癒しの環境研究会理事長)

[会場]東京・日本医科大学医学部

[連絡先]癒しの環境研究会 : TEL03-6805-9921 / FAX03-6805-9926

URL: <http://www.jshe.gr.jp/> / E-Mail: iyashi@jshe.gr.jp

平成 30 年度 関東ブロック研修会

私たち訪問看護認定看護師は「質の高い看護を提供したい」という思いのもと、日々療養者の方々と向き合っています。今年度研修会では地域包括ケアシステム構築及び共生社会の実現、多職種連携でキーマンとなるべく期待をされている訪問看護師。今回は「難病の政策・課題・訪問看護師に期待する事」をテーマに企画致しました。東京都の在宅難病事業の担当官をお招きしております。国・東京都等の視点から講義を頂きますので是非ご参加ください。

「難病政策と課題・訪問看護師に期待する事」

日時：平成 30 年 1 月 26 日（土）13：00～17：00（受付 12：30～）

◆13：00～14：30 講義：東京都福祉保健局保健政策部疾病対策課（在宅難病事業担当）

課長代理 **土屋 哲也 先生**

◆14：40～15：40 実践報告 北浦 利恵子さん 福生病院

小暮 和歌子さん ふれあい訪問看護ステーション

◆15：45～17：00 グループディスカッション・まとめ・講評

制度の使い方や課題など地域での実情を話し合い利用者への対策に役立てましょう！

参加費：会員 無料（非会員：3,000 円 当日徴収）当日入会者は無料

定員：35名 定員になり次第締め切ります

会場：SOBIZGATES【加瀬会議室】A 会議室・東京都新宿区新宿 5-1 1-2 SOBLD 2 階
<https://www.instabase.jp/space/1384> 新宿三丁目駅 1分

（問い合わせ）一般社団法人日本訪問看護認定看護師協議会

関東ブロック ナースステーション東京目黒支店（担当：廣川 直美）

153-0063 東京都目黒区目黒 1-5-4-101 / TEL：03-6417-0561 FAX：03-6417-0608

e-mail：meguro@zaitakucare.co.jp

(5) 南関東ブロック

正会員数 32名 (ブロック長: 豊田好美氏)



名称: 南関東ブロック会議

1. 実施日時: 2018年5月27日(日) 15時~17時
2. 会場: ブライト看護株式会社 えがおナースケアステーション
3. 参加人数: 計 4人 (神奈川県3人・山梨県1人はビデオ通話にて参加)
4. 活動内容の報告

(1) 活動の目的

9月開催ブロック研修会及び交流会の企画立案

(2) 具体的な内容

- ①開催日時、場所の決定 9月9日(日) 10:00~15:00 戸塚区 ONE FOR ALL 予定
- ②研修会内容について
時間: 10:00~12:00
テーマ「石田まさひろ先生に聴く看護の未来と訪問看護師への期待」
講師: 参議院議員 石田まさひろ先生
 - ・講演と後半30分ほどディスカッションの時間を設ける
 - ・対象は訪問看護認定看護師及び訪問看護師、約30名
 - ・南関東ブロック会員以外に、他ブロック及び地域の看護師にも案内
- ③交流会について
時間: 12:00~14:30
昼食をとりながらの交流/自己紹介
各認定看護師の困りごとや活動内容の報告等
- ④今後の予定
 - ・会場予約: 飯島、ポスター作成: 豊田
 - ・会場確定後講師依頼書送付
 - ・協議会へ申請
 - ・会員等への広報周知

名称: 平成30年度南関東ブロック研修会及び交流会

1. 実施日時: 2018年9月9日(日) 10時~14時30分
2. 会場: 地域交流施設 ONE FOR ALL 横浜
3. 講師: 参議院議員 石田 昌宏氏
4. 参加人数: 計 20人 (午前: 研修会20名、午後: 交流会9名)

	研修会 (非会員)	交流会 (非会員)
神奈川県	18名 (10名)	7名 (0名)
長野県	1名 (0名)	1名 (0名)
山梨県	1名 (0名)	1名 (0名)

5. 活動内容の報告

(1) 活動の目的

- | |
|---|
| 1. 看護の未来を知り訪問看護師としての日々の活動に活かす
2. 訪問看護に関する知識や経験の共有及び協議会入会広報 |
|---|

(2) 具体的な内容

【研修会】 10:00～12:00

- 講演 90分
石田まさひろ先生に聴く『看護の未来と訪問看護師への期待』 講師：参議院議員 石田昌宏氏
- 意見交換会 30分

【交流会】 12:00～14:30

- 昼食をとりながら、自己紹介
- 講演を聴いての感想や今後の活動に活かせるようなことの共有
- 日々の活動の中での困りごとや頑張っている活動の報告と共有
- 次年度役員交代について
- 研修会開催時期について

(3) 活動の効果

- 講師の石田先生からは、制度の枠にとらわれない自費での活動の視点をご講義いただいた。訪問看護で得られる地域の情報や困りごとを、健康づくりや安心、制度にないアイデアを形にしていくこと、活動に参加したくなるような名前付け、生活をパッケージで考える視点、ITを人材不足に活用するなど、訪問看護の枠にとらわれない地域づくりや看護の可能性をご講義いただいた。
- 意見交換会では、活発に石田氏への質問が出ていた。活動していてもなかなか結果が見えない事に対して、結果が出るまでは時間がかかること取り組み続ける事の大切さを具体的な事例からお話くださったり、夜間の人員配置に働くことと休息の関連から事例を示してくださったり、私達の仕事をご理解いただいた上でのわかりやすいお話が参加者の好評を得ていた。
- 午後の交流会では、石田先生の講義を聞きながら、「これからの活動のアイデアが浮かんだ」「枠のなかで考えようとしてしまいがちだと感じた」「活動の結果にはまだまだ時間が必要、継続したいと感じた」など講演から参加者の思考に広がりを感じられる会となった。
- 講演会には地域の訪問看護師も参加呼びかけた。未入会の訪問看護認定看護師の参加もあり入会広報に繋がった
- 次年度はブロック理事は長野山梨からブロック長は神奈川からそれぞれ選任する。
- 研修会開催時期については、9月1～2週目が適当との見解となった。

名称：南関東ブロック会議

1. 実施日時：2019年2月16日（土） 10時～12時
2. 会 場：一般社団法人 鶴見区医師会 在宅部門 会議室
3. 参加人数：計2人 （神奈川県2人）
4. 活動内容の報告

(1) 活動の目的

- | |
|-----------------------|
| ・2019年度活動計画予定と引継ぎについて |
|-----------------------|

(2) 具体的な内容

- | |
|--|
| ①2019年度ブロック役員交代について
・ブロック理事は長野 伊藤みほ子氏 |
|--|

- ・かながわからブロック長 後任検討中
 - ・任期2年、山梨/長野と神奈川で交互に選出、会員への周知も必要
 - ・会員がブロック役員を経験し、協議会の普及活動ができる人材を増やしていく
- ②2018年度南関東ブロック活動の振り返り
- ・2018年度ブロック計画目標「ブロック活動を知ってもらおう」ブロック研修会、交流会の周知時期が遅く参加者が少なかった
 - ・横浜開催が2年続き長野、山梨参加者は交通費負担もあり参加が少ない
 - ・隔年神奈川と山梨/長野開催にして参加しやすいように
 - ・協議会活動が活発になるよう、今年度同様会員、非会員へのブロック活動広報を行う
- ③活動計画
- (ア) ブロック会議 3回/年 5月、10月（交流会前）、1月
 - (イ) 研修会、交流会
 - ・9月または10月ごろ予定
 - ・内容については会員へのアンケート等で募集するもよい
 - ・5月新体制役員とのブロック会議にて詳細決定する
 - (ウ) 会員活動参加と非会員への入会活動について

(3) 今回の活動で得られたと思う点

- ・交流会参加者からは認定看護師の情報交換ができたことに好評を得た
- ・活動広報は引き続きの課題である

石田まさひろ先生に聴く

『看護の未来と訪問看護師への期待』



石田まさひろ先生 参議院議員・自由民主党

1967年 生まれ。1990年 東京大学卒業。聖路加国際病院(内科)東京武蔵野病院(精神科)に勤務。その後、日本看護協会で政策企画室長として看護関連政策の立案・調整に従事。続いて38歳で日本看護連盟幹事長に就任し各級選挙のかじ取りをする。2013年 参議院議員初当選。参議院 厚生労働委員会 筆頭理事 沖縄及び北方問題に関する特別委員会 委員 資源エネルギーに関する調査会 委員 自民党参議院国会対策委員会副委員長 厚生労働部会・財務金融部会 副部長 厚生労働部会看護問題小委員会 副委員長 厚生関係団体委員会 副委員長 厚生労働部会医師の働き方改革に関するプロジェクトチーム・国際保健医療戦略特命委員会・データヘルス推進特命委員会 幹事 女性活躍推進本部・性的指向・性自認特命委員会事務局次長 議員連盟 看護問題対策議員連盟 幹事受動喫煙防止議員連盟事務局次長 超党派 適切な遺伝医療を進めるための社会的整備を目指す議員連盟副会長 など

平成 30 年度の南関東ブロック研修会は看護師でもある石田まさひろ先生による講義及び意見交換会を企画いたしました。在宅見取り、認知症や精神疾患、障害者や医療的ケア児など医療・介護・障害と様々な対象者を看護する私たちの活動力となりますよう皆様のご参加をお待ちしております。

2018 年

9 月 9 日(日)

10:00～12:00(開場 9:40)

対 象 看護職
参加費 協議会会員 無料、非会員 500 円

会 場 ONE FOR ALL 横浜

神奈川県横浜市戸塚区戸塚町 157-3
JR 戸塚駅 徒歩約 7 分



一般社団法人 日本訪問看護認定看護師協議会 南関東ブロック

【申込み/問合せ】 〒241-0821 神奈川県横浜市旭区二俣川 1-88-24 旭訪問看護リハビリテーション内

電話 045-363-8531 FAX 045-363-8532 担当豊田

(6) 東海北陸ブロック

正会員数 87名 (ブロック長：近藤佳子氏)



名称：第11回 東海北陸ブロック会

1. 実施日時：2018年9月15日(土) 13時30分～16時30分
2. 会場：名古屋市熱田区在宅サービスセンター 研修室
3. 講師：神田春美氏、森田貞子氏、山端二三子氏、永井知直美氏
4. 参加人数：計40人 (愛知県31人・岐阜県4人・福井県1人・石川県1人・三重県3人)
5. 活動内容の報告

(1) 活動の目的

1. 会員相互の交流を図りネットワークを作る。
2. 地域での活動をお互いに共有し、認定看護師としての役割を共に考える。

(2) 具体的な内容

1. 日本訪問看護認定看護師協議会より伝達事項
 - ①愛知県看護協会認定看護師教育課程卒業生の協議会への加入が少ないため、周囲からの声掛けを行ってほしい。
 - ②11月10日の交流会へ是非参加してほしい。認定看護師新制度の話もある。
 - ③認定看護師新制度について、スライドで紹介、簡単に説明を行う。
日看協のH.P.を各自で確認しておくこと。
2. 実践報告
 - ①神田春美氏：終訪問看護ステーションの取り組み
所属：有限会社シーズン 終訪問看護ステーション
 - ②森田貞子氏：看護小規模多機能型居宅介護‘すみれの家’を開設して
所属：株式会社すみれ すみれ訪問看護ステーション
 - ③山端二三子：特定行為研修終了後の活動報告
所属：碧南市在宅ケアセンター訪問看護ステーション
 - ④永井知直美氏：三河地区の活動報告
所属：一般社団法人 安城市医師会安城在宅医療サポートセンター実践報告からのG.W.及び発表

(3) 活動の効果

それぞれの地域での特性を理解し、地域診断することで、各自が地域の問題や課題を見つけ、問題解決に向けての認定看護師としての実践活動が、とても参考になった。

(4) その他

- ・北陸地方、静岡からの参加が少なく、研修案内を出しても返事がないなどの問題がある。交通の便が悪いなどの問題もあるが、今後の課題である。



～講義の様子～



～グループワークの様子～

名称：東海北陸ブロック会(予定)

1. 実施日時：2019年3月16日(土) 13時～16時30分
2. 会 場：名古屋市熱田区在宅サービスセンター 研修室
3. 講 師：藤吉由美子氏(更新申請情報提供)、佐久間由美氏(講演)
4. 参加人数：計60人(予定)
5. 活動内容の報告

(1) 内容

目的：

1. 認定看護師更新申請に合格し認定看護師としての活動が継続できる
2. よりよいエンドオブライフケアのためのACPを学び、訪問看護認定看護師として求められる役割を理解し実践力を身につける

概要：

1. 2018年度に更新申請し合格した会員から、更新方法の伝達講習を受ける
2. 「人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン」に沿った支援方法の講義を基にグループワーク等を通して、訪問看護認定看護師として求められる役割を理解し実践力を身につける

第12回 日本訪問看護認定看護師協議会東海北陸ブロック会 お知らせ

初春の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃は大変お世話になっております。

下記の通りブロック会を開催いたします。

記

- 1、日程 2018年3月16日(土) 13:00～16:30
- 2、場所 熱田区在宅サービスセンター 研修室
住所：名古屋市熱田区神宮3丁目1-15 区役所複合ビル6階
(交通機関：地下鉄 名城線「神宮西」駅下車 2番出口徒歩5分
JR 熱田駅下車 徒歩すぐ
市バス 熱田区役所下車 徒歩すぐ)
- 3、当日のスケジュール予定
12:30～ 開場・受付
13:00～ 1、日本訪問看護師連絡協議会から情報提供
13:15～ 2、更新申請について
5年目更新 藤吉 由美子氏
地方独立行政法人 岐阜県立多治見病院
13:30～ 3、講演
テーマ「よりよいエンドオブライフケアのためのACPを学ぶ」
～訪問看護認定看護師として求められる役割を理解し実践力を身につける～
講師：社会福祉法人 聖隷福祉事業団
聖隷三方原病院 がん専門看護師 佐久間 由美氏
16:30 終了
- 4、参加費 無料
- 5、連絡先 名古屋市療養サービス事業団
近藤 佳子(携帯)090-2573-2713

以上

今回の案内は、2018年12月時点で協議会の会員登録されている方へ通知させていただきます。同期の方で未入会の方がいらしたら、ぜひ声をかけていただき、出席いただけたらと思います。

(7) 近畿ブロック

正会員数 75名 (ブロック長：雨森千恵美氏)



名称：平成30年度近畿ブロック代表者顔合わせ

1. 実施日時：2018年6月2日(土) 12時30分～13時
2. 会場：CIVI研修センター新大阪東
3. 参加人数：計9人 (滋賀県1人・京都府1人・大阪府4人・兵庫県3人)
4. 活動内容の報告

(1) 活動の目的

今年度近畿ブロック代表者府県の顔合わせと次回会議の日程調整

(2) 具体的な内容

名刺交換 連絡先の確認 第1回ブロック会議の議事内容の提案

(3) 活動の効果

第1回ブロック会議を9/1、10時～12時 大阪訪問看護ステーションハートフリーやすらぎで開催決定

名称：近畿ブロック活動内容の協議

1. 実施日時：2018年9月1日(土) 10時～12時
2. 会場：訪問看護ステーションハートフリーやすらぎ 大阪
3. 参加人数：計13人
(大阪府5人・兵庫県3人・京都府1人・奈良県1人・和歌山県1人・滋賀県1人)
4. 活動内容の報告

(1) 活動の目的

こんにちまでの近畿ブロックの活動内容を振り返り平成30年度活動内容を協議する。今年度各府県代表者が集まり情報交換し交流を図る。

(2) 具体的な内容

- ① 日本訪問看護認定看護師協議会への入会やブロック活動への参加を促すため広報誌の発行を提案し承認された。9月中に発行する。
- ② 平成31年2月2日の午後実践報告会を例年のように行う、今年は、午前中に講師をお迎えし「訪問看護の経営について」学習会を開催する
- ③ 各府県の認定看護師の動向と課題について情報交換を行い交流した

(3) 活動の効果

- ① 広報誌の発行決定
- ② 平成30年度の学習会&実践報告会の内容が決定した
- ③ ブロック代表者同士のネットワークを構築し、今後連絡が取りやすくなった

(4) その他

別紙広報誌を添付します ご精査頂き承認頂ければ9月中に発行したいと思います

名称：2018年度 近畿ブロック研修会

1. 実施日時：2019年2月2日（土）10時～16時30分

2. 会 場：滋賀県草津市立市民交流プラザ

3. 講 師：社会医療法人美杉会 高須久美子氏

4. 参加人数：計41人

(大阪府11人・兵庫県8人・京都府5人・奈良県2人・和歌山県3人・滋賀県12人)

5. 活動内容の報告

(1) 活動の目的

- ・会員相互の交流を図りネットワークをつくる
- ・各府県の実践報告を聞き、自身の活動を振り返り今後に活かす
- ・訪問看護認定看護師抱える悩みの一つ「経営について」楽しく学ぶ

(2) 具体的な内容

- ① 基調講演：テーマ「本当は楽しい経営管理～訪問看護バージョン～」
講師 社会医療法人美杉会 看護教育部長 高須久美子氏
- ② 実践報告会：6府県から「訪問看護基礎講座の取り組みについて」など報告頂いた
- ③ 各府県に分かれて情報交換会を行い発表した

(3) 活動の効果

- ① 会員からのアンケート結果 別紙参照
- ② 未入会者の参加を各府県から呼びかけて頂き6名の参加があり、会員を増やす機会になった
- ③ 基調講演と実践報告会を組み合わせることで、学び交流し、満足度は高かった。
- ④ 会場である滋賀県の認定看護師が協力的で盛り上げることができた



～講演の様子～

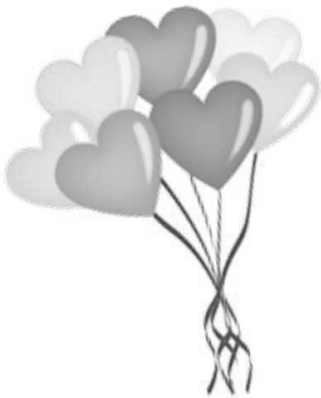


～グループワークの様子～

一般社団法人 日本訪問看護認定看護師協議会

2018年度 近畿ブロック研修会 ～ようこそ滋賀県へ～

師走の候 ますますご健勝のこととお慶び申し上げます
さて、2018年度近畿ブロック研修会を下記の通り開催いたします。
今年度は、地方滋賀で開催することが出来、誠に光栄です。近畿のブロック委員と滋賀の認定看護師が
交流を楽しみにしております 多くの皆様のご参加をお待ちしています。



日時 2019年

2月2日 (土)

10:00～16:30 (受付 09:45)

会場

草津市立市民交流プラザ
(フェリエ南草津5階)



【申込み・問合せ先】

別紙申込書をメール又はFAXにて下記宛先まで
お申込みお願い致します

宛先：近畿ブロック長 雨森 千恵美
(訪問看護ステーション ゆげ)

Mail : yugenurse@gmail.com

TEL : 0748-57-0584 FAX : 0748-57-1130

会場詳細

滋賀県草津市野路町1丁目15-5

(JR琵琶湖線 南草津駅 改札階東口直結徒歩2分)

(お車でお越しの場合隣接市営駐車場 (駐車チケット(黄色)を市民交流
プラザ事務室までお持ちください。4時間無料の処理をいたします)

※4時間以上、30分毎に100円の駐車料の自己負担が発生いたします。



一般社団法人

日本訪問看護認定看護師協議会

研修目的

- ◆ 会員相互の交流を図りネットワークをつくる
- ◆ 各府県の実践報告を聞き、自身の活動を振り返り今後活かす
- ◆ 訪問看護認定看護師が抱える悩みの一つ「経営について」楽しく学ぶ

内容

- ◆ 基調講演 & 各府県代表者による実践報告会

スケジュール

- 10:00～12:00 オリエンテーション
基調講演
テーマ【本当は楽しい経営管理～訪問看護バージョン～】
講師 高須 久美子 氏（社会医療法人 美杉会 看護部教育部長）
- 12:00～13:00 昼食休憩（フェリエ内飲食店あり）
- 13:00～14:30 実践報告会
和歌山県：「訪問看護基礎講座の取り組みについて」林 幸子 氏
大阪府：「排泄ケア 疑問～勉強会～実践～学会発表まで」前田 知美 氏
京都府：「新卒訪問看護師育成研修に関する報告」松久保 眞美 氏
兵庫県：「認定看護師から専門看護師へ」二宮 園美 氏
奈良県：「」○○○○ 氏
滋賀県：「滋賀の認定さんの様々な活動を紹介しまーす」和田 幸子 氏 他
- 14:30～14:40 休憩
- 14:40～16:30 各府県に分かれて情報交換会

【申込み・問合せ先】

別紙申込書をメール又はFAXにて下記宛先まで
お申込みお願い致します

宛先：近畿ブロック長 雨森 千恵美
（訪問看護ステーション ゆげ）

Mail : yugenurse@gmail.com

TEL : 0748-57-0584 FAX : 0748-57-1130

会場詳細

滋賀県草津市野路町1丁目15-5

（JR琵琶湖線 南草津駅 改札階東口直結徒歩2分）

（お車で越しの場合隣接市営駐車場（駐車チケット(黄色)を市民交流
プラザ事務室までお持ちください。4時間無料の処理をいたします）

※4時間以上、30分毎に100円の駐車料の自己負担が発生いたします。



一般社団法人

日本訪問看護認定看護師協議会

(8) 中四国ブロック

正会員数 19名 (ブロック長:齋藤貴美子氏)



名称: 中四国ブロック会議

1. 実施日時: 2018年6月2日(土) 19時~21時00分

2. 会場: 新大阪(総会終了後の開催)

3. 参加人数: 計 6 人

4. 活動内容の報告

(1) 活動の目的

2018年度の活動の計画(案)検討

(2) 具体的な内容

1. 活動案

1) 研修会(案)

① 摘便

② コンサルテーション

(萩原先生、ディズニーランド職員による勉強会、ブロック内CNによる報告会)

③ 小児看護

④ 連携

2) 高知県での訪問看護認定看護師説明会開催

3) 情報提供療養費算定のためのステーションの実態調査

以上の活動案から研修会②を平成30年度の活動とする

2)については、今後の日看協が考える認定看護師教育課程の動向を見て高知県への働きかけを考えていく

3)については下記参照

2. 活動内容(案)

1) 研修会開催の方法

・今年度は訪問看護認定看護師対象の研修会とする

・講師依頼は金銭面的に厳しい

・6/25に開催されるコンサルテーションの研修会受講者の伝達講習を開催することとする
日程等は後日検討

2) 情報提供療養費算定のためのステーションの実態調査

・訪問看護認定看護師が所属するステーションでのアンケート調査を行い、市町がどのような情報を必要としているかを調査する

・アンケート調査を行うに当たり、倫理委員会の承認が必要か確認する

・日程等の詳細については未定

名称: 中四国ブロック研修会(予定)

1. 実施日時: 2019年3月24日(日) 10時~15時

2. 会場: 岡山市北区奉還町1-7-7 オルガホール

3. 講師: 茨城県立中央病院 角田直枝氏

4. 参加人数: 計 19 人(予定)

5. 活動内容の報告

(1) 内容

テーマ：コンサルテーション力を高めよう

目的：コンサルテーションの基本や事例を通して、各地域で認定看護師として様々な相談に対応できる力を身につける

概要：研修時間3時間を予定。その後、各地域の活動報告と交流会を開催予定

(9) 九州ブロック

正会員数 35名 (ブロック長：堀口奈緒子氏)

名称： 意思決定支援～実践編
「人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン」を活かした支援できていますか？



1. 実施日時：2018年11月17日(土) 9時30分～16時30分
2. 会場：福岡県教育会館
3. 講師：板井孝彦先生、馬場美代子氏、安部美保氏、宮城愛子氏
4. 参加人数：計27人(会員：17人 非会員：10人)

県名	人数	県名	人数	県名	人数
福岡県	5人	宮崎県	2人	鹿児島県	4人
長崎県	0人	大分県	7人	沖縄県	1人
佐賀県	3人	熊本県	5人	県	人

5. 活動内容の報告

(1) 活動の目的

昨年度は、「終末期における利用者家族の意思決定支援」に関する基礎編の研修会を開催したため、今回は「人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン」をもとに、ロールプレイを交えた実践編を習得する機会とした。また、各県での訪問看護認定看護師の活動を知り、グループワークで各人の活動での悩みや活動の効果として現れている点を出し合い、互いに学び、鼓舞しながら、これからの活動の参考になることを目的とした。

(2) 具体的な内容

【午前の部】

「人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン」を活かした支援できていますか？

宮崎大学医学部生命・医療倫理学分野 教授 板井孝彦先生

【午後の部】

- ・各県の訪問看護認定看護師の活動報告

佐賀県・馬場美代子氏

沖縄県・宮城愛子氏

- ・認定更新を行った経験談

大分県・安部美保氏

- ・交流会(グループワーク)

訪問看護認定看護師として感じている悩み・どう活動すべきか

(3) 活動の効果

今回の研修会は、ガイドラインの活用を今後どうすべきか？という全体の関心事であるため、会員だけでなく、九州の病院や訪問看護ステーション全域にお知らせを配布したことや、各県の訪問看護認定看護師が声をかけてもらったことで、非会員、特に病院看護師含め、27名中10名の参加があった。ACPという難しい課題であったが、板井孝彦先生の講義が面白く、笑いの絶えない時間であり、その中でロールプレイも交えながら、ACPをすすめて行くに当たり、どのような声かけや関わり方をすればよいかを学ぶことができた。

(4)その他

各県の活動報告では、人材確保が困難な課題に対しての佐賀県の取り組みや、沖縄県の独特の風土と認定看護師としての取り組みを学んだ。特に沖縄県の活動報告は興味深いものであった、という感想が多かった。交流会では、昨年度と同じように、現在の活動で悩んでいることや活動の成果についてグループワークを行い、前回と今回の違いは、前は悩み事を話し合う場で終わった部分があったが、今回は活動の成果として現れていることも多く、実践の場に戻ったときに、「悩んでいたけど、私もやってみよう」という前向きな結果で終わることができた（グループワークの内容は別紙に記載）。

会を重ねるごとに、九州ブロックの訪問看護認定看護師の団結力が強くなっており、協議会の存在が浸透してきていると感じた。



～研修の様子～



～グループワークの様子～



九州でがんばる

九州訪問看護認定看護師会研修

意思決定支援～実践編(昨年受講していなくても受けられます)

講師：宮崎大学医学部生命・医療倫理学分野

教授 板井孝信 氏

「人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン」
を活かした支援できていますか？

平成30年11月17日(土)

対象者：訪問看護師 病院看護師 退院調整に関わる職種者

参加費：1,000円 会員500円 昼食は各自持参下さい

時間：受付 9:00 開始9:30～16:30

場所：福岡県教育会館 〒812-0054 福岡県福岡市東区馬出4-12-22
できるだけ公共交通機関をご利用ください

schedule

講演 ロールプレイ (AM)
各県訪問看護活動報告 更新情報など (PM)

お問い合わせ先：〒845-0001 佐賀県小城市小城町815番地1
(医療法人ひらまつ病院訪問看護ステーション内)
一般社団法人 日本訪問看護認定看護師協議会 九州ブロック
担当：堀口 奈緒子
TEL:0952-72-8652/ FAX:0952-20-1700
Mail:horiguti.n@gmail.com

2 研究活動 2018 年度研究活動報告 –近畿ブロック–

専門・認定看護師事例検討会・滋賀の取り組みと課題

–参加者へのアンケート調査から–

和田幸子¹⁾ 齋藤京子²⁾ 桶河華代³⁾ 森野智史⁴⁾

- 1) 大津市民病院訪問看護ステーション 2) 滋賀県済生会訪問看護ステーション
3) 聖泉大学看護学部 4) 市立大津市民病院

キーワード 専門看護師、認定看護師、事例検討会、看-看連携

1. はじめに

これから迎える超高齢社会を支えるために平成 27 年度に出版された「訪問看護アクションプラン 2025」には訪問看護が目指す姿として、Ⅰ. 訪問看護の量的拡大 Ⅱ. 訪問看護の機能拡大 Ⅲ. 訪問看護の質の向上 Ⅳ. 地域包括ケアへの対応、の 4 つの大項目が示されている。

「Ⅰ. 訪問看護の量的拡大」の小項目の中に、医療機関と訪問看護ステーションの看護師の相互育成を掲げ、1) 医療機関から地域・在宅へスムーズに療養の場所を移行できるよう、医療機関と訪問看護ステーションの人的交流、出向、長期研修などの人材育成システムをつくる、2) 医療機関からの訪問看護がより良く提供されるよう、医療機関の看護師が訪問看護ステーションと交流や学習し合える機会を増やす¹⁾ としている。筆者らは、地域、病院に所属する専門・認定看護師の役割に目を向け、2015 年より滋賀県における一定の地域の専門・認定看護師で構成する事例検討会を立ち上げ、前年度滋賀県看護学会にて専門・認定看護師事例検討会の意義についてまとめ実践報告を行った。

結果は、「新たな知識を得る場所」「他分野の認定看護師との交流の場」「検討会への意見」であった。²⁾ 病院と訪問看護ステーションの看護師の相互育成のための一助を担えたのではないかと考えている。しかし課題として、地域の困難事例ばかりであり、病院での困難はどのようなものなのかについて、検討できていない、そこで看護問題を幅広く偏りなく検討することも重要と考え、次年度は病院所属の認定看護師から事例提供頂き、アンケート調査から専門・認定事例検討会の意義を検討し今後の課題についてまとめたので報告する。

2. 研究方法

事例検討会は年 3 回計画した。事例検討は 2 時間とし、医療機関認定看護師の困難事例を提示し、参加者で対象理解、解決策を検討した。検討後はスーパーバイザーによるコメントを受けさらに理解を深めた。

1) 調査対象

2017年4月～2018年5月、事例検討会に参加した20名の専門・認定看護師を対象とした。

2) 調査期間

2017年4月～2018年5月

3) 調査内容

質問紙内容は以下の5項目とした。

①専門・認定看護師分野②専門・認定看護師歴③本日の検討会は今後役に立つか（大いに役立つ、役立つ、あまり役立たない、役に立たない）④次回も参加したいと思いますか（参加希望、参加希望しない）⑤意見や感想を自由記載

4) 分析方法

①～④については単純集計⑤の自由記載については質的帰納的にコード化し、その内容の意味の共通性について比較分析しサブカテゴリ化、カテゴリ化した

5) 倫理的配慮

本研究は、無記名自記式の質問紙と共に参加を拒否しても不利益がないこと、施設・個人の匿名性を口頭で説明した。回収箱に自ら投函してもらうことで同意を得た。また、平成30年4月16日市立大津市民病院の倫理委員会の承認を得ている。

3. 結果

アンケート回収率 90%であった。

① 専門、認定看護師の分野については、家族支

援、がん看護、在宅看護の専門看護師、摂食・嚥下障害看護、認知症看護、精神科認定看護師、慢性心不全看護、皮膚・排泄ケア、訪問看護の認定看護師であった。

②専門・認定看護師歴については、1～5年：9名（53%） 6～10年：6名（35%） 11～15年：2名（12%）であった。

③今後役に立つかについては、大いに役立つが95% 役立つが5%であった。

④次回も参加したいと思いますかは、参加希望17名 参加希望なし3名

⑤参加された意見や希望は、記載された文章を分析し28のコードから4サブカテゴリにまとめ【新たな知識を得る場所】【他分野の認定看護師との交流の場】の2カテゴリを抽出した（図1）。以下、カテゴリ【 】サブカテゴリ< >コード「 」で表す。

1) 【新たな知識を得る場所】

「自分一人ですらとせずスタッフと一緒に困って一緒に実施していけるようにしていきたい」、「自分の思っていることを本人に聞いてみる」から具体的な考えや行動>とし、また、「自立・社会的サポートについては考えさせられます」、「現実的な社会問

題を知る機会になった」、「救急での現状を知ることができ大変勉強になった」、「病院の様子もわかり、新しい視野や考えを得ることができた」、「救急の現場の大変さを理解することが出来ました」、「病棟での看護の大変さに気づいたのとその中でのかわり方について学習できた」、「在宅で日々看護している私にとって病院での看護介入の難しい面を感じた」から<他分野の現状を知る>とまとめた。そして、「色々な視点で見ることが出来た」、「多分野の専門的な意見を聞いて参考になった」、「みなさんの一つ一つの質問など聞いているだけでも勉強になった」、「違う視点でたくさん意見を頂き学びになった」、「出来ることは限られるのではないかと思ったがたくさんの意見を頂いた」、「訪問看護師として病棟へのアプローチとして、大変勉強になった」、「他の分野の認知症看護師さんとの事例検討では多くのスキルを学べた」、「事例を振り返り、今後の看護を深めていきたい」から<他分野の意見を聞き視野が広がる>とし【新たな知識を得る場所】が抽出された。

2) 【他分野の認定看護師との交流の場】

「他施設の方と話せるのはやはり楽しい。この機会にもっと多くの方に参加してほしい」、「それぞれの専門領域の視点が聞けるのが面白かった」、「事例が大変だと思いますが、とても実感できるもので、その事例を通し皆さんの思い、考えがわかり楽しかった」、「地域での話も聞けて良かった」、「参加者の皆様があつくて勉強になった」から<認定看護師同士の顔の見えるきっかけ作り>とし【他分野の認定看護師との交流の場】とした。

今回、医療機関からの事例提供後のアンケート結果でも前回の事例検討会と同じく2つのカテゴリ【新たな知識を得る場所】【他分野の認定看護師との交流の場】が抽出された。

4. 考察

いろいろな職種や関係者が行う検討会は地域で多数行われ、在宅ケアの基盤整備としてより良いシステム作りを目指している。専門・認定看護師事例検討会もその一つの役割があると考えている。これから訪れる超高齢化社会において看護師の果たす役割は大きく期待も高い、地域と病院とのシームレスな関係が鍵を握り、その人らしい人生を支援するための地域包括ケアシステムは看護を土台に作っていくことが理想だと考える。専門・認定看護師事例検討会は2年目を迎えアンケート調査から検討会の意義について一定の評価を得た。会を重ねるごとに他分野の専門・認定看護師の顔の見える関係も進み、地域と病院との距離も少し身近になったと考えている。

今後は検討会に参加するだけに留まらず、それぞれの専門・認定看護師がどのように認識を変容させ、行動に繋げシステム構築へと進んで行けるかが大事だと考える。

課題として、これまでのアンケートから抽出されたカテゴリは飽和に達したと思われ、アンケート内容を検討し、事例検討会後に自らのアクションプランを持たせたかなどに焦点をあて、今後も事例検討会をきっかけに、それぞれの看護師が一步でも行動変容できるように事例検討会を運営していきたい。

付記

本研究は、2018年度一般社団法人 日本訪問看護認定看護師協議会 研究活動支援の助成を受け実施した。滋賀県看護学会（2017）で報告したもの²⁾、聖泉看護学研究（2018）での実践報告⁸⁾に新たに事例検討会を加え分析したものである。

引用、参考文献

- 1) 訪問看護アクションプラン 2025: www.jvnf.or.jp/2017/actionplan2025.pdf/(accessed 2018/5/20)
- 2) 齋藤京子、和田幸子、桶河華代：他分野の専門・認定看護師により構成された事例検討会の意義，22. 69. 2017.
- 3) 日本看護協会：日本看護協会の政策提言活動
- 4) 大橋奈美：訪問看護認定看護師の相談援助職者としての課題と成果，グループスーパービジョンによる事例検討会参加者の振り返り記述から，日本在宅看護学誌，3(1):50. 2014.
- 5) 豊倉睦美：病院看護師と訪問看護師による合同事例検討会を通じた対話の効果，日本在宅看護学会誌 5(1)：85. 2016.
- 6) 末安民生：実践に活かす！精神科看護事例検討会，中山書店，2013.
- 7) 見藤隆子：看護職者のための政策過程入門第2版
- 8) 桶河華代、齋藤京子、和田幸子：看護師のエンパワメントを高める研究会の取り組みと課題，聖泉看護学研究，7：17-22，2018.

他分野で構成する事例検討会後の参加者の認識の変化
—事例を提供した認定看護師へのインタビュー調査から—

齋藤京子¹⁾ 和田幸子²⁾ 桶河華代³⁾ 森野智史⁴⁾

- 1) 滋賀県済生会訪問看護ステーション 2) 大津市民病院訪問看護ステーション
3) 聖泉大学看護学部 4) 市立大津市民病院

キーワード 専門看護師、認定看護師、事例検討会、認識、他分野

要旨

【目的】専門・認定看護師の継続教育の場、看-看連携の促進、地域包括ケアシステムの促進をはかる目的で専門・認定看護師で構成する事例検討会を立ち上げた。事例検討会で事例を提供した看護師が、検討会後に考えや行動にどのような変化があったかを明らかにする。

【方法】2015年12月から2018年2月までの6回の実例検討会のうち、事例を提供した5人に半構造化面接法を行い、質的帰納的に分析した。倫理的配慮として、ICレコーダに録音する事を説明し、書面で同意を得た。これらの手順は市立大津市民病院倫理委員会の承諾を得て実施した。

【結果】対象者は、訪問看護2名、認知症看護1名、慢性心不全看護1名、救急看護1名の認定看護師であった。分析の結果、3つのカテゴリ、【対象者視点の看護への気づき】、【学びからの行動の変化】、【認定看護師としての心がけ】が抽出された。

【考察】他分野の専門・認定看護師で構成する事例検討会は、顔の見える連携作り、その場の学びだけでなく、自分たちの看護を振り返り、専門・認定看護師の自覚を再認識することにつながった。地域から病院、病院から地域へと看-看連携が進み、地域包括ケアシステム作りに貢献できたと考える。

I. 諸言

在宅療養者の急増・重度化・多様化・複雑化は、より専門的な知識の共有やシームレスな看-看連携をはかり、地域の看護問題を高度な看護実践の役割のある専門・認定看護師は主導して地域包括支援システム構築へ関わる必要がある。専門看護師、認定看護師は、専門分野でトレーニングを受けた看護師であり、他職種と連携をとる窓口にもなっている（穂高ら 2017）。しかし、看護実践においては、リーダーシップや実践力を望まれるため、ジレンマを感じている看護師もいる。また、認定看護師を取得し、専門性を極めたとしても専門性を発揮して活躍しているのか、評価するものは、5年に一度の更新時のみである。

筆者らが勤務する地域には、約120名の専門・認定看護師が登録され、その多くは病院に所属している³⁾。多くの認定看護師を有する病院内では、患者を中心に必要時には専門・認定看護師が連携する場面があったり、認定看護師を取得する際に一緒であった認定看護師同士が集まって情報を共有したりしている。しかし、病院外において他分野の専門・認定看護師間の繋がりは弱い現状であり、特に訪問看護認定看護師は、褥瘡やストーマケアに困っても、相談する認定看護師がいなくて困ることもある。

そこで、訪問看護認定看護師2名がA地域に勤務する様々な認定看護師を集めて2015年12月から事例検討会を立ち上げた。研究会は4か月に一度定期的に行われ、コメンテーターとして専門看

看護師に依頼すること、専門看護師の資格を持つ認定看護師もいたことから、「他分野で構成する専門・認定看護師の事例検討会」とした。途中から、大学の教員、慢性心不全認定看護師が加わり 4 名で研究会を運営している。目的は、専門・認定看護師の継続教育の場、看-看連携の促進、地域包括ケアシステムの促進をはかることであり、第 1～3 回は地域の困難事例を提供し、第 4～7 回は病院での困難事例を議論した。4 回までの学びとして、病院、在宅で働く専門・認定看護師の実践活動からディスカッションでき、それぞれの立場を見直す良い学習機会、看-看連携の強化となり、エンパワメントは高めることはできたと報告している（桶河ら，2018：聖泉大学看護学部助成金にて実施）。しかし、参加した専門・認定看護師が各施設でどのように実践に活かしているかまでには至っていない。

事例検討会後には、参加者に①専門・認定看護師分野、②専門・認定看護師歴、③本日の検討会は今後役に立つか、④次回も参加したいと思うか、をアンケート調査し、役に立つという意見が多く、自由記載からは、新たな知識を得る場所、他分野の認定看護師との交流の場になっているという結果であった（齋藤ら，2017）。

事例検討会の成果としては、寺島ら（2015）は、科学的看護論を適用した「看護者は科学的看護論を適用した事例検討会の過程で、事例の事実や参加者の体験に基づく認識の交流を通して実践方法論に即した認識の変化を生みだし、自らチームの看護を振り返り、今後に向けた課題や目標を見出す事ができていた」ことを明らかにしている。また、訪問看護認定看護師が開催する事例検討会告では、「継続参加しているグループメンバーの気づきを引き出す質問力の成長が検討会を重ねることで獲得している」ことが報告されている（大橋ら，2014）。このように事例検討会の効果の報告はあるが、他分野の専門・認定看護師で構成した事例検討会での学びや効果に関する報告は見当たらない。今回、他分野の専門・認定看護師で構成した事例検討会で、事例を提供した認定看護師が、検討会後に考えや行動にどのような変化があったかを明らかにする。

II. 研究方法

1. 研究目的

他分野の専門・認定看護師で構成する事例検討会で事例を提供し、その後、自分の考えや行動に変化があったのかを明らかにする。

2. 研究デザイン

質的帰納的研究

3. 調査期間

2018 年 4 月～2019 年 2 月

4. 調査対象者

第 1 回（2015 年 12 月）～第 6 回（2018 年 2 月）事例検討会で事例提供した認定看護師 5 名で、事例検討会後 3 か月以上経過した者とした。

5. データ収集方法

認定看護師に半構造化面接を行い、「事例を提供してから、自身の考えに変化があったか」「行動に変化はあったか」「事例検討会に参加してどうであったか」を質問し、自由に語ってもらった。会話は IC レコーダにて録音して逐語録を作成した。

6. 分析方法

逐語録を精読し、意味内容で文章をコード化し、類似例、相違例をサブカテゴリ、カテゴリへ

と抽象度を上げていった。再検討を繰り返し行い、質的研究者らと共に分析していった。

7. 倫理的配慮

研究目的と方法、研究参加の任意性と中断の自由、不利益の回避、研究終了後の全データの適切な方法による破棄、匿名性の確保、本研究に限ったデータの使用、インタビューの録音について文書と口頭により説明を行い、同意を得た。平成 29 年に協同研究者が所属する倫理委員会にて承認を得て実施した（承認番号 349）。

Ⅲ. 結果

1. 調査対象者の属性

調査対象者の 5 名は、訪問看護ステーションに勤務する訪問看護認定看護師 2 名、病院に勤務する認知症看護認定看護師 1 名、慢性心不全看護認定看護師 1 名、救急看護認定看護師 1 名であった。インタビュー時期は事例を提供した検討会後 4~10 か月後であり、インタビュー時間は各 30 分程度であった。

2. 分析結果

分析の結果、認識の変化内容は、29 コード、7 サブカテゴリ、3 カテゴリに分類された（表 1）。尚、カテゴリは【 】, サブカテゴリは [], コードは< >で示す。

1) 【対象者視点の看護への気づき】

【対象者視点の看護への気づき】は、[誰のための看護か気づかされるアドバイスを受けた][より一層患者視点へシフトした]の 2 つのサブカテゴリから構成された。

インタビューの冒頭は、<施設に入(はい)れたことがゴールですかって言われたことで、救急看護として命が守れたって考えていたが、その人の人生観を考えると、自宅で手すり一つあれば、もっと QOL が上がって、ADL が保てたっていうことを考えるようになった>や<自分では患者さんの話を聞いているつもりだったが、話し合い聞いていて、「もっと家族さんとかとも、もっと話ができればよかったのかなあ。」って背中を押してもらえた>、<家族支援の専門看護師に「利用者、介護者、看護師の関係性を見ること。介護の相談に乗ることだけでも十分看護につながっている」といわれ看護に自信が持てた>、<「誰のための治療なのかな」というアドバイスをいただいたのが非常に、印象に残っています>など事例検討会での参加者やアドバイザーからの印象深い言葉があり、[誰のための看護か気づかされるアドバイスを受けた]が抽出された。

また、<地域の看護からの視点と、施設にいる僕らの視点は、ちょっと違う、やっぱり見えている場所が違うと気づいた>と語り、<救命して、自宅に何とか帰って、サポート受けながら、手すり一つでも付けたら、その人の QOL はすごく上がるなっていうのが分かりました>や<家族と本人とお話をお聞きして、擦り合わせていくというか、一番いい落としどころを探していくのかな、っていうのは、結構今回、勉強になった>と各認定分野以外の視点が必要であることが語られた。このように得意とする各認定分野看護に加えて患者の生活を考え [より一層患者視点へシフトした]。

2) 【学びからの行動の変化】

【学びからの行動の変化】は、[自分の患者視点の看護に自信を持ち行動が変化した][顔の見える連携が実現][周りの看護師の変化に繋がった]の 3 つのサブカテゴリから構成された。

検討会後の行動の変化として、自分だけの学びにとどめておくのではなく<チームのスタッフ

に看護を称賛されたことなど事例検討会の学びを報告した」と語った。そして、「この人にとってどうか？」っていうところで、病棟の人にも声をかけられるようになった「どうなんですかね…？」っていう感じで投げかけられるようになった>やく病態アセスメントは慎重になった。病状とか、家庭環境とか、QOL を考えた時に、以前よりも関わり方を考えるようになった>、<訪問の方とか、家族看護の専門看護師から意見をいただくと、自分の患者さんへの関わり方に幅が出たのかなって思います>のように、事例検討会前と後での看護への違いが語られた。さらに、<ICU に移動になって介入依頼が必要な人にカンファレンスを持っているので、細かい面でサポートが必要なのかとか、自宅が何階やったり、とかいうふうなことまで考えている>と配属勤務病棟が変わっても患者の生活の視点を考えることができおり、[自分の患者視点の看護に自信を持ち行動が変化した]。

地域で働く看護師は、<在宅の事例に病院の看護師たちが真剣に取り組んでくれた姿を見て嬉しかったし、安心した>と語り、その後退院した病院の看護師に電話をして患者の相談を行うなど [顔の見える連携が実現] していた。

各認定看護師の行動の変化は、<状態が悪くなる傾向に今後予測されるかとかになると、それほど強い制限、指導とか、というよりは、その方がいかに、ご自宅で安全に暮らせるのかな、っていうのを考えてもらうようになりました >やく (患者の) できるところを、もっとみんなに (病棟看護師) いいところを見せてあげたら、現場も変わる>、<自分たちの看護に自信が持てたことで、チームの看護師たちも疲弊することなく現在も前向きな看護ができている>のように [周りの看護師の変化に繋がった] ことが抽出された。

3) 【認定看護師としての心がけ】

【認定看護師としての心がけ】は、[スタッフとの関わりのがけ] [組織の中での認定看護師の役割] の2つのサブカテゴリから構成された。

<仕事は一生懸命やっていつも元気で楽しくやる、喧嘩しない ><いろいろ話を聞いて認定なんだしもっとグイグイいく><患者さん側に立つ ><スタッフと同じ視点、同じ言葉を使って患者さんの状態を確認する関わりがすごい大事><アサーティブに自分の意見を言うっていうふうな感じでやっていきたい>とのコードから認定看護師として指導、相談の役割に関する行動から [スタッフとの関わりのがけ] を抽出。<自分の意見を聞いてもらえるし、一目置かれる><今まで納得いかなかったことに口出しできるっていうふうなことはやっぱり大きい><組織を変えらしたら、もってこいの資格>とのコードから [組織の中での認定看護師の役割] を抽出した。

IV. 考察

平成 27 年度には専門・認定看護師事例検討会を発足し、参加者のアンケートから「新たな知識を得る場所」・「他分野の認定看護師との交流の場」を抽出した (齋藤ら, 2017)。今回はさらに事例を提供した参加者へのインタビューから参加者の認識、行動への変化に焦点を当て「対象者視点への気づき」「学びからの行動の変化」「認定看護師としての心がけ」と新しいカテゴリを抽出した。紙面のアンケートからは見出せない認定看護師の生の意見を聞くことで事例検討会の効果が、アドバイザーもしくは参加者からの印象に残るコメントで患者や家族の話をもっと聞くべきや、在宅の場での ADL を支える視点がさらに強化されるという認識の変化があり、具体的な支援方法を思い描くことができていた。他分野で行う事での視点の効果があると考えられるとともに、これは、寺島ら (2014) の科学的看護論を適用した事例検討会で、「事例検討会の過程で、事例の事実や参加者の

体験に基づく認識の交流を通して実践方法論に即した認識の変化を生みだし、自らチームの看護を振り返り、今後に向けた課題や目標を見出す事ができていた」との結果と同じことが展開されていた。しかし、認識を変えてもその後の行動が変化しているのか、調査した研究はなかった。今回インタビューを行った事で、実際に連携を強化した認定看護師や、自チームに持ちかえりやっている看護の意味を伝えるという行動や、スタッフへの言葉かけが変化した、より対象者視点へのアセスメントを慎重に行うなど、実際の関わり方に幅が出ているという語りから事例検討会後の行動の変化かが明らかになった。

さらに今現在の「認定看護師としての心がけ」として語ったカテゴリは、現場で看護師に対して行う指導、相談に関する認定看護師の役割に悩みながらスタッフと関わっている心境が垣間見え、心がけとして行っている認識や行動は認定看護師としての看護実践や指導、相談を行なう上での姿勢や技術とも言える。教育課程で学んだ認定看護師の役割が実践の場で行われる時に起こる葛藤やストレスをどう乗り越えていっているのか興味深い内容であった。

専門・認定看護師事例検討会は看一看護連携への後押しや、それぞれの発言が影響し合いリフレクションしながら自らの力量を高めて行く場となり事例検討会そのものが認定看護師にとって継続教育の場になっている。これらの事から事例検討会の意義があり継続して行く事で認定看護師の看護の質や役割強化に繋がり地域の看護の質向上が地域包括ケアシステム推進につながると考えられた。

V. 結論

専門・認定看護師事例検討会の効果について調査し、これまでの「新たな知識を得る場所」・「他分野の認定看護師との交流の場」に付け加え「対象者視点への気づき」「学びからの行動の変化」「認定看護師としての心がけ」というカテゴリが抽出された。

他分野の専門・認定看護師で構成する事例検討会は、顔の見える連携作りだけでなく、自分たちの看護を振り返り、看護の視点を焦点化させ専門・認定看護師の自覚を再認識し行動化へ繋げていた。

今後の課題

他分野で構成する専門・認定看護師事例検討会での学びは大きく、困難事例における看護の質の向上に大いに役立っている。今後は、この会を一般化させるための対策やシステム作りも視野に入れ、会の運営を継続していきたいと考えている。

付 記

本研究は、平成 30 年度一般社団法人日本訪問看護認定看護師協議会（近畿ブロック）の助成を受けて行い、平成 30 年 12 月滋賀県看護学会（大津）で発表し、研究をさらに発展させて、その成果をまとめたものである。

引用、参考文献

- 1) 平成 30 年版看護白書，日本看護協会出版会，2018 年
- 2) 公益社団法人日本看護協会，一般社団法人全国訪問看護事業協会，公益社団法人日本訪問看護財団：訪問看護アクションプラン 2025
- 3) 分野別都道府県別登録者検索（2018 年 7 月現在）
<http://nintei.nurse.or.jp/certification/General/GCPP01LS/GCPP01LS.aspx>

- 4) 平成 25 年度 厚生労働省 保健指導支援事業 保健指導技術開発事業 報告書 平成 26 年 3 月 公益社団法人 日本看護協会 “実践力 事例検討会” ～みて・考え・理解して～
- 5) 寺島久美、沼口文枝、山岡深雪、黒木瞳、井上理恵子、谷口敦子：科学的看護論を適用した急性期看護事例検討会の成果と意義：宮崎県立看護大学大学看護研究。研修センター・事業年報（4）,p26-36,2015-07
- 6) 平成 27 年公益社団法人日本看護協会 実践力 UP 事例検討会におけるアセスメントを深めるためのファシリテーターの手引き
- 7) 豊倉睦美(2016)：病院看護師と訪問看護師による合同事例検討会を通じた対話の効果,日本在宅看護学会誌, 5(1)
- 8) 末安民生：実践に活かす！精神科看護事例検討会
- 9) 大橋奈美（2014）：訪問看護認定看護師の相談援助職者としての課題と成果, グループスーパービジョンによる事例検討会参加者の振り返り記述から, 日本在宅看護学誌, 3(1)
- 10) 大橋奈美、田端支普、笹山志帆子、豊倉睦美、宮崎美保、久保玲子、平岡桃重、矢出装子、稗田洋子、北直美、岡本双美子、橋本眞紀：訪問看護認定看護師の事例検討会継続参加による〔気づきを引き出す質問力〕の成長 日本在宅看護学会誌 VOL7, (1) 33, 2018
- 11) 訪問看護認定看護師数 612 名 日本看護協会 認定部 2018 年 7 月 http://nintei.nurse.or.jp/nursing/wp-content/uploads/2018/08/07cn_vn201807.pdf
- 12) 永田裕子, 篠木絵理, 濱田麻由美：看護における「事例検討会」に関する文献検討 東京医療保健大学紀要, 第 6 巻, 第 1 号, 43-49, 2012
- 13) 堂下陽子, 山崎不二子：精神科看護事例検討会の方法論に関する研究-参加者の意識調査の分析から-, 県立長崎シーボルト大学看護栄養学部紀要, 第 5 巻, 51-59, 2004
- 14) 齋藤京子, 和田幸子, 桶河華代（2017）：他分野の専門・認定看護師で構成された事例検討会の効果, 第 22 回滋賀県看護学会集録集, 69-70.
- 15) 桶河華代, 齋藤京子, 和田幸子,（2018）：看護師のエンパワメントを高める研究会の取り組みと課題, 聖泉

3 その他の活動

(1) 実態調査

Supported by  日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

訪問看護認定看護師と専門看護師、訪問看護師の在宅看護実践と多職種連携の特徴 ～中間報告～

大阪府立大学大学院看護学研究科 岡本双美子

訪問看護ステーションハートフリーやすらぎ 大橋奈美

I. 目的

訪問看護認定看護師と専門看護師、訪問看護師の在宅看護実践と多職種連携の特徴を明らかにし、在宅における訪問看護師間の役割分担など在宅看護の質の向上に向けた検討を行う基礎資料とすること。

II. 研究方法

対象は、在宅で看護実践と多職種連携を実践している専門看護師（以下、CNS と称す）50 名と訪問看護認定看護師（以下、CN と称す）341 名、訪問看護師 420 名、合計 811 名とした。

III. 結果（中間報告）

CNS 17 名、CN 132 名、訪問看護師 101 名、合計 250 名（回収率 30.8%）であった。

1. 対象者の特徴

CNS と CN、看護師すべて年代は 40 歳代が最も多く、次いで 50 歳代であった。

CNS の平均看護師経験は 21.9 ± 5.3 年、訪問看護師経験は 7.3 ± 4.5 年、CN は 26.3 ± 6.9 年、 14.6 ± 5.8 年、訪問看護師は 25.6 ± 9.3 年、 10.5 ± 7.6 年と、CNS がやや短めであった。

多職種連携研修会や在宅終末期ケア研修の受講経験と過去 1 年間の終末期ケア経験について、CN と CNS は訪問看護師に比べて「有」が多かった。

2. 訪問看護師の看護実践の評価と多職種連携行動

訪問看護師の看護実践の評価は、「利用者の理解と信頼関係（4 項目）」と「利用者への支援（4 項目）」、「利用者への配慮（4 項目）」、「利用者主体の看護計画（4 項目）」、「看護実践の達成感（3 項目）」、「専門職としての自律性（3 項目）」、「看護師間の協働（3 項目）」の 7 下位尺度、25 項目からなる。一元配置分散分析の結果、「利用者への支援」と「利用者への配慮」、「看護師間の協働」で自由度（2, 247）の F 値が 3.10 と 3.05、5%水準で有意であった。その後の多重比較では有意な差がみられなかった（3 職種間での差は明らかにならなかった）。

多職種連携行動は、「意思決定支援（4 項目）」と「予測的判断の共有（3 項目）」、「ケア方針の調整（3 項目）」、「チームの関係構築（5 項目）」、「24 時間支援体制（2 項目）」の 5 下位尺度、17 項目からなる。一元配置分散分析の結果、全ての下位尺度と総合得点で $F(2, 247) = 3.45, p < 0.05$ 、 $F(2, 247) = 8.89, p < 0.000$ 、 $F(2, 247) = 3.77, p < 0.05$ 、 $F(2, 247) = 4.78, p < 0.01$ 、 $F(2, 247) = 3.18, p < 0.05$ 、 $F(2, 247) = 6.57, p < 0.01$ で有意であった。その後の多重比較では、「予測的判断の共有」では、全ての職種間（訪問看護師と CN 間、CN と CNS 間、訪問看護師と CNS 間）で有意な差がみられた。また、総合得点では、訪問看護師と CN 間、訪問看護師と CNS 間で有意な差がみられた（CN と CNS 間では有意な差がなかった）。「ケア方針の調整」では、訪問看護師と CN 間で有意な差がみられ、「意思決定支援」と「チームの関係構築」では、訪問看護師と CNS 間で有意な差がみられた。

IV. 考察（中間報告）

訪問看護師は、CNやCNSに比べてより「看護師間の協働」に関する看護実践を評価していた。一方、CNやCNSは、訪問看護師に比べてより多職種連携に関する行動を実施しており、特にCNは「ケア方針の調整」に関する行動を実施し、CNSは「意思決定支援」と「チームの関係構築」について訪問看護師に比べてより実施していたことが明らかになった。

以上のことから、訪問看護師は看護師間の協働、CNは利用者のケア方針についてチーム内での調整、CNSは利用者の意思決定を中心に、普段から相互理解を深めるようチームの関係構築を実施していることがわかった。

*なお、現在データ分析を継続して実施中である。

対象者の個人特性

		職種			合計
		看護師	CN	CNS	
年齢	20歳代	3	0	0	3
	30歳代	7	4	4	15
	40歳代	32	52	8	92
	50歳代	47	67	5	119
	60歳代	12	8	0	20
合計		101	131	17	249
多職種	あり	72	113	13	198
研修	なし	25	18	3	46
合計		97	131	16	244
在宅終末期	あり	55	111	13	179
研修	なし	43	20	4	67
合計		98	131	17	246
1年終末期	あり	81	124	16	221
経験	なし	20	7	1	28
合計		101	131	17	249

職種		看護師	CN	CNS
看護師経験	平均値	25.571	26.252	21.882
	度数	98	131	17
	標準偏差	9.2536	6.9463	5.3137
訪問看護師経験	平均値	10.462	14.636	7.267
	度数	100	132	15
	標準偏差	7.5609	5.7840	4.4796

訪問看護師の看護実践の評価

	訪問看護師(101)	CN(132)	CNS(17)	F 値
利用者の理解と信頼関係	13.34±2.02	13.61±1.81	13.82±1.98	0.843
利用者の想いや考えは理解できている	3.34±0.55	3.34±0.59	3.41±0.62	
利用者との良い関係作りをしている	3.50±0.54	3.59±0.51	3.65±0.49	
利用者に安心感を与えている	3.42±0.59	3.46±0.53	3.41±0.62	
利用者に満足度の高いケアを提供している	3.08±0.66	3.22±0.56	3.35±0.61	
利用者への支援	13.01±1.95	13.54±1.86	13.94±1.85	3.09*
利用者及び家族の意向に合わせて看護ケアを行っている	3.38±0.60	3.56±0.51	3.59±0.51	
利用者が主体となって看護に参加している	3.06±0.73	3.20±0.72	2.88±0.78	
利用者に合わせて他職種の方と連携している	3.39±0.58	3.53±0.53	3.71±0.59	
利用者の理解力や発達段階に応じた言葉やしぐさを選択している	3.40±0.58	3.51±0.53	3.53±0.51	
利用者への配慮	13.01±1.95	13.54±1.86	13.94±1.85	3.09*
自ら利用者との時間を作るようにしている	3.05±0.64	3.23±0.69	3.35±0.79	
利用者への細かな配慮をしている	3.35±0.64	3.42±0.59	3.59±0.51	
自ら利用者への意見を求めるようにしている	3.28±0.65	3.55±0.57	3.65±0.61	
利用者及び家族がそれぞれの役割を果たせるように励ましている	3.34±0.57	3.33±0.66	3.35±0.61	
利用者主体の看護計画	12.80±2.11	13.37±2.15	12.88±3.00	2.013
看護計画に利用者の意見を取り入れている	3.16±0.73	3.33±0.66	3.18±1.02	
看護計画を見直すようにしている	3.37±0.60	3.39±0.67	3.53±0.62	
利用者が理解しやすい看護目標を設定している	3.19±0.60	3.33±0.64	2.94±0.97	
利用者との看護計画を共有している	3.09±0.72	3.32±0.72	3.24±0.97	
看護実践の達成感	8.83±1.79	8.89±1.75	8.53±1.81	0.324
利用者に自己決定への援助をすることは達成感に繋がる	3.26±0.70	3.52±0.61	3.06±1.09	
自身が作成した看護目標に対して達成感がある	2.77±0.68	2.61±0.74	2.71±0.69	
看護計画の効果はやりがいに繋がっている	2.80±0.79	2.75±0.84	2.76±0.75	
専門職としての自律性	10.01±1.63	10.27±1.55	10.76±1.75	1.914
自身の専門職としての自律性は高い	3.16±0.70	3.23±0.72	3.47±0.62	
看護師としての役割を意識化している	3.42±0.59	3.49±0.55	3.65±0.61	
看護に対する責任感は向上している	3.44±0.54	3.55±0.57	3.65±0.61	
看護師間の協働	10.24±1.47	9.82±1.58	9.47±1.70	3.046*
看護師間で情報の共有をしている	3.60±0.51	3.51±0.61	3.47±0.51	
看護ケアの一貫性は図れている	3.14±0.65	2.94±0.69	2.76±0.83	
看護師間で業務を協力している	3.50±0.56	3.37±0.62	3.24±0.83	
総合得点	81.45±9.59	83.30±9.41	83.12±7.81	1.154

* : p<0.05

注) その後の検定では有意な差がみられなかった

多職種連携行動

	①訪問看護師 (n=101)	②CN (n=132)	③CNS (n=17)	F 値
意思決定支援	12.90±2.06	13.36±2.00	14.18±2.04	3.449* ①と③*
今後の過ごし方に関する利用者・家族の希望を他職種から情報収集した	3.23±0.65	3.26±0.64	3.35±0.61	
今後の過ごし方に関する利用者・家族の希望を他職種へ伝えた	3.36±0.56	3.51±0.59	3.65±0.49	
利用者・家族が病気・病状をどのように理解しているかについて 他職種から情報収集した	3.04±0.82	3.16±0.69	3.53±0.62	
利用者・家族が病気・病状をどのように理解しているかについて 他職種へ伝えた	3.28±0.59	3.43±0.58	3.65±0.61	
予測的判断の共有	10.09±1.64	10.67±1.47	11.59±1.00	8.887*** ①と②* ①と③** ②と③*
今後起こりうる利用者の生活状況の変化(例:食事の摂取量や排泄の自立度の低下など)について、自身の専門性から予測し他職種に伝えた	3.37±0.60	3.55±0.52	3.88±0.33	
今後起こりうる利用者の病状の変化(例:病気の進行に伴って生じる症状の出現など)について、自身の専門性から予測し他職種に伝えた	3.37±0.58	3.58±0.53	3.88±0.33	
今後起こりうる利用者の病状の変化(例:家族の気持ちや介護負担の増強など)について、自身の専門性から予測し他職種に伝えた	3.36±0.59	3.55±0.53	3.82±0.39	
ケア方針の調整	9.07±1.85	9.70±1.68	9.65±1.77	3.769* ①と②*
ケアの方針・ケア計画についてチーム全体で合意を図った	3.15±0.71	3.14±0.72	3.18±0.81	
ケア方針・ケア計画について他職種と意見交換した	2.96±0.68	3.15±0.69	3.00±0.61	
病状の変化に応じてケアプランの変更(他職種のサービス内容や頻度も含め)をチームを組んだ他職種に提案した	2.96±0.72	3.40±0.58	3.47±0.72	
チームの関係構築	14.92±2.69	15.74±2.69	16.76±2.54	4.775** ①と③*
他職種が提供しているサービスの具体的な内容を情報収集した	3.02±0.69	3.18±0.68	3.59±0.51	
チームを組んだ他職種と気後れせずに何でもきける関係を築いた	2.94±0.72	3.11±0.71	3.18±0.88	
自身が提供しているサービスの具体的な内容を他職種に伝えた	3.09±0.65	3.27±0.64	3.53±0.51	
普段から定期的に他職種との顔合わせの機会をもった(勉強会やカンファレンスなど)	2.84±0.85	2.91±0.94	2.88±0.93	
他職種に対してねぎらいの言葉や肯定的評価を伝えた	3.03±0.70	3.27±0.71	3.59±0.62	
24時間支援体制	6.13±1.34	6.45±1.29	6.88±1.54	3.175*
緊急時において、チームを組んだ他職種間で即座に連絡が可能な体制をとっていた	3.11±0.72	3.28±0.73	3.53±0.72	
平常時において、チームを組んだ他職種間で情報共有できる体制をとった(連絡網や情報交換ツールなど)	3.02±0.74	3.17±0.79	3.35±0.93	
総合得点	53.11±7.84	55.92±7.39	59.06±7.22	6.573** ①と②* ①と③**

* : p<0.05、** : p<0.01、*** : p<0.001

(2) コンサルテーション事業

コンサルテーション実施報告書(1)

ブロック名： 北関東ブロック

報告者： 大桐 四季子

相談ステーション名	A訪問看護ステーション	
指導日時	①見学受入れ ・ ②電話相談(1回目) ・ ③現地指導(確認合) 2018年4月 午後	
1.面談者(計 1名) 役職： 管理者		
2.相談事項		
	相談内容(現状)	現状の問題点
①	機能強化型1におけるターミナル療養費の管理方法	精神訪問看護も実施しているため、在宅看取り数が月ごとに変動あり、算定要件が毎月満たせる状況を維持できるか不安である。
3.改善の具体案		
①前年及び現時点までの在宅看取り数、依頼内容(依頼目的)の分析を実施し、機能強化型1を継続的に算定できる状況か、再度見直しをする。近隣STの状況も把握することを提案。 ②方針として、算定していく場合は、地域(医療機関・居宅支援事業所など)への周知活動を実施する事を提案。		
4.自己評価		
自STは、機能強化型を報酬改定直後から算定している。毎年の総括、評価をもとに管理方法の見直しを行っており、その結果、現在も算定できる状況を維持することができている。この点は、相談相手として安心していただけっていたのではないかと考えます。コンサル後は、報酬改定の要件の解釈についてなど、お互いに相談し連携をとっています。		
今後の対応	①終了(軌道にのっているため)・②見学受入れ・③電話相談(回目)・④現地指導	

コンサルテーション実施報告書(2)

ブロック名： 九州ブロック

報告者： 金子美千代

1 回目

相談ステーション名	B訪問看護ステーション	
指導日時	①見学受入れ ・ ②電話相談(回目) ・ ③現地指導(確認含) 2018年7月 午後 14:00～16:00	
1.面談者(計 1名) 役職： 管理者		
2.相談事項		
	相談内容(現状)	現状の問題点
①	多機能化に伴う教育体制について 5月に児童発達支援事業、放課後等デイサービス、保育所等訪問事業を行う多機能施設へ事業拡大した為、スタッフの人材育成や看護管理に対して悩んでいる。	一生懸命取り組んでいるが、管理者の一方的な通達になっていて組織としてスタッフ間で共有化されていない。また、大規模化に向けて人材を採用したが、教育体制も整っていないため、人材育成に苦渋している。訪問件数も多く、ミーティングする時間を確保できないことで日々のスタッフの倫理的ジレンマに対しても十分な対応ができていないことが推察された。
3.改善の具体案		
①看護管理に関しては、組織体制を整え役割移譲することを提案。また、運営会議も開かれていないため、月に一度は運営について会議を設け、理念や事業方針の共有化を図り、ケアの質向上に向けた討議を行う体制を整えることを提案。(その際、管理者主体ではなく、スタッフが主体的に取り組めるよう各委員会を設置し、スタッフに役割を担ってもらうことを提案)。人財育成に関しては、段階別に育成できるよう訪問看護OJTガイドブックを活用するよう提案。新人教育に関しては、同行訪問などのOJTで在宅看護の思考過程が理解できるようプロセスレコードを用いたリフレクションを提案。スタッフの倫理的ジレンマに対しては、ジョンセン等による症例検討シートを用いた倫理カンファレンスの実施を提案。		
4.自己評価		
管理者は、スタッフへの承認や強みを活かせるよう支援していたので、組織化がしっかり行えれば、スタッフ一人ひとりが役割を持ち、それぞれの目標を目指して仕事に取り組み、それにより生み出された成果が組織の目的達成に繋がるという目標管理について気付きがあると考えた。また、人財育成に関しては具体案を提示しすぎたかもしれないが、ポジティブに取り組む管理者なので実際に用いてどうだったか、検討シートの検討方法などについて効果的に行われるようフィードバックすることで活用可能となり、管理者自身が管理に自信を持てるのではないかと考えた。		
今後の対応	①終了・②見学受入れ・③電話相談(回目)・ ④現地指導	2019年2月予定

2 回目

相談ステーション名	B訪問看護ステーション	
指導日時	① 見学受入れ ・ ②電話相談(回目) ・ ③現地指導(確認含) 2018年2月 午後 14:00 ~16:00	
1.面談者(計 1名) 役職： 管理者		
2.相談事項		
	相談内容(現状)	現状の問題点
①	多機能化に伴う教育体制について 5月に児童発達支援事業、放課後等デイサービス、保育所等訪問事業を行う多機能施設へ事業拡大した為、スタッフの人材育成や看護管理に対して悩んでいる。	一生懸命取り組んでいるが、管理者の一方的な通達になっていて組織としてスタッフ間で共有化されていない。また、大規模化に向けて人材を採用したが、教育体制も整っていないため、人材育成に苦渋している。訪問件数も多く、ミーティングする時間を確保できないことで日々のスタッフの倫理的ジレンマに対しても十分な対応ができていないことが推察された。
3.改善の具体案 看護管理に関しては、組織体制を整え役割移譲することを提案。また、運営会議も開かれていないため、月に一度は運営について会議を設け、理念や事業方針の共有化を図り、ケアの質向上に向けた討議を行う体制を整えることを提案。(その際、管理者主体ではなく、スタッフが主体的に取り組めるよう各委員会を設置し、スタッフに役割を担ってもらうことを提案)。人材育成に関しては、段階別に育成できるよう訪問看護 OJT ガイドブックを活用するよう提案。新人教育に関しては、同行訪問などの OJT で在宅看護の思考過程が理解できるようプロセスレコードを用いたリフレクションを提案。スタッフの倫理的ジレンマに対しては、ジョンセン等による症例検討シートを用いた倫理カンファレンスの実施を提案。		
4.自己評価 管理者は、スタッフへの承認や強みを活かせるよう支援していたので、組織化がしっかり行えれば、スタッフ一人ひとりが役割を持ち、それぞれの目標を目指して仕事に取り組む、それにより生み出された成果が組織の目的達成に繋がるという目標管理について気付きがあったと考えた。また、人材育成に関しては具体案を提示しすぎたかもしれないが、ポジティブに取り組む管理者なので実際に用いてどうだったか、検討シートの検討方法などについて効果的に行われるようフィードバックすることで活用可能となり、管理者自身が管理に自信を持てるのではないかと考えた。		
5. 相談後の実践確認 看護管理：組織体制を整え役割移譲を行っていた。「最近はお私がいなくてもスタッフは困らなくなりました。」と笑顔が見られた。リスク委員会、感染委員会等を設置し、スタッフが主体的に取り組めるようになったことや、その活動を承認するためにインシデントレポートを多く提出したスタッフを表彰するなどの取り組みを行っているという報告を受けた。この取り組みによりスタッフからは「インシデントレポートとは悪いことをしてしまったという認識だったが、気付きを提出し、その内容について皆で対策が立てられ、提出したことを褒めてもらえるって嬉しいですね」という言葉が聞かれ、リスクの感受性を高める体制作りになっていた。また、運営会議を月に一度開催することにより、収支に対するスタッフの意識も高くなり、必要な利用者へ訪問件数を増や		

す働きかけが行えるようになっていた。

人材育成：プロセスレコードを用いたリフレクションを行うことで、スタッフは解釈の違いに気づき、他者に自己がどのように映っていたか客観的に振り返る機会となっていた。利用者の視点に立った援助関係が築けるよう支援できていた。事例検討に臨床倫理の症例検討シートを用いることで、スタッフ間で情報を共有し、ジレンマを明確化し、介入することができるようになっていた。その他、スタッフ育成のための事業所内研修をこれまでは他者に依頼していたが、管理者、自ら行うことができるようになっていた。自己の経験や研修等での学びをアウトプットして伝えていくことで自分の学びにもなり、それが自信にも繋がっているようだった。今後は、2年以内に更なる多機能化(看護小規模多機能)を目指したいということだった。離島では新しい情報が入りにくいため、様々な情報が得られる機会が必要ではないかと考え、協議会の賛助会員について情報提供した。入会を希望されたので、今後も新たな多機能化に向け、継続支援できたら良いと考える。

今後の対応

①終了・②見学受入れ・③電話相談(回目)・④現地指導

コンサルテーション実施報告書(3)

ブロック名： 近畿ブロック

報告者： 大橋奈美

1 回目

相談ステーション名	C訪問看護ステーション	
指導日時	①見学受入れ ・ ②電話相談(回目) ・ ③現地指導(確認含) 2018年10月 午前8:30~12:00	
1.面談者(計 1名)		
役職： 所長		
2.相談事項		
	相談内容(現状)	現状の問題点
①	新卒看護師の受け入れ、教育、育成について今後、新卒看護師を受け入れたいと考えているが、新卒看護師の採用は初めてで、どのように教育すればいいのか？訪問看護師として独り立ちできるためには、どのような教育が必要なのか？どれくらいのペースで計画したらいいのか悩んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・初めての新卒看護師の受け入れに対しての、訪問看護師の認識と行動変容 ・基礎看護技術に関する習熟の場として連携機関の活用 ・クリニカルラダーをどのように取り入れ、人事評価を実施していく必要があるのか。
3.改善の具体案		
<ul style="list-style-type: none"> ① 現在新卒訪問看護師4人存在していることを伝えた。 ② 自施設のスケジュールの提案、ホームページのダウンロードの活用を依頼した。 ③ 法人内での新卒看護師を育成するというマインド作りが必要であることを伝えた。 ④ 法人内にあるクリニックとの連携と共同で、新卒訪問看護師を午前はクリニック、午後は実際の訪問看護に同行するなどの教育スケジュールのほうが実際の訪問現場で人間関係の構築ができ非常にスムーズに在宅に受け入れてもらえることを伝えた。 一年間は、看護技術を習熟してもらおう。新卒看護師は、先行投資であることと、10-20-30-50年後を考えたときに今、若い世代を入れて訪問看護ステーションの高齢化を止めないといけない。 		
4.自己評価		
<p>今回は、訪問看護ステーションでの新卒看護師の実際を見ていただき、新卒看護師を受け入れられるものだろうか？という不安感からは、できるのだという認識に変わったと考える。今後、2019年3月に現場を確認し、準備段階での不安から安心に変え、新卒を受け入れる環境を整える環境を助言する必要性がある。</p>		
今後の対応	①終了・②見学受入れ・③電話相談(回目)・④現地指導	2019年3月実施予定

2回目

相談ステーション名	C訪問看護ステーション	
指導日時	①見学受入れ ・ ②電話相談(回目) ・ ③現地指導(確認含) 2019年3月 午前 11:00~14:30	
1.面談者(計 1名) 役職： 所長		
2.相談事項		
	相談内容(現状)	現状の問題点
①	新卒看護師の受け入れ、教育、育成について今後、新卒看護師を受け入れたいと考えているが、新卒看護師の採用は初めてで、どのように教育すればいいのか？訪問看護師として立ち回るためには、どのような教育が必要なのか？どれくらいのペースで計画したらいいのか悩んでいる。	・初めての新卒看護師の受け入れに対しての、訪問看護師の認識と行動変容 ・基礎看護技術に関しての習熟の場として連携機関の活用 ・クリニカルラダーをどのように取り入れ、人事評価を実施していく必要があるのか。
3.改善の具体案		
① 2019年4月から新卒訪問看護師を受け入れるにあたってのスケジュールの具体化		
② 医療法人内での認識と育成するという職員のマインドの変化と目的を明確にしているクリニックとの連携と共同で、新卒訪問看護師を午前はクリニック、午後は実際の訪問看護に同行するなどの教育スケジュールが整った。		
③ 地域連携室があり、10月から地域連携室で研修していくカリキュラムも自施設で導入する。診療の補助を診療部が7、8人いるので、医師のフィジカルアセスメントを学ぶ。レントゲンなども、病棟で医師からの心電図・レントゲンを見るなどしてもらおう。一年間は、看護技術を習熟してもらおう。		
4.自己評価		
実際に、自施設を見ていただき、何が大事であるのか？「即戦力の訪問看護師」「卒後3年目の看護師を在宅へ」という時代ではなく、自らが育て育みあう姿勢が大事であるという影響になったのではないだろうか。実際に訪問看護ステーションを見学してもらい、新卒訪問看護師の受け入れに対しての不安感は、対話によって改善され不安から安心に変えることができたといえる		
今後の対応	①終了・②見学受入れ・③電話相談(回目)・④現地指導	



一般社団法人 日本訪問看護認定看護師協議会 ミニセミナー

「ナーシングデイ開設のいろは」

これを受けるとばっちりわかる！！

開設に興味のある方、役所に聞いてもわからない用語から
実践までを知ることができるセミナーです。

日時

2019年

3月17日 日 13:30-15:30 (13時受付開始)

場所: フクラシア丸の内オアゾ D会議室
(東京都千代田区丸の内1-6-5丸の内北口ビルディング)

「ナーシングデイ開設のいろは」

講師: 野崎加世子氏

岐阜県看護協会立訪問看護ステーション高山 管理者
一般社団法人日本訪問看護認定看護師協議会 監事

申込み: 先着20名。申込書に必要事項をご記入頂き、
事務局までFAXをお願いします

締切日: 2019年3月10日(日)必着

参加費: 無料

ご予約
お問い合わせ

一般社団法人日本訪問看護認定看護師協議会
事務局 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-8-2
TEL:03-5778-7008 FAX:03-5778-7009
Mail:kyogikai@jvnf.or.jp

1 ブロック活動

本事業は、日本財団の助成を受けて、日本訪問看護認定看護師協議会をエリアごと9ブロックにわけて活動をしている。各ブロックの活動として、まず、事前申請し、承認を得たあとに活動を実施し、報告書を提出する形をとっており、2018年度も昨年と同様に活発な活動が展開された。また、申請書や報告書の作成においてはブロック活動実施ガイドラインを毎年更新し、活動の活性化を働きかけている。

各ブロックは、会員数の違いや、ブロック分けが複数県にわたる広域に及ぶことにより、地域特性や課題を把握した上での活動内容はそれぞれであった。特に、本年度は自然災害の影響により予定通りに開催ができないブロックある中、各々が活動方法を駆使し、各ブロックからの活動申請は1-2回以上/年間提出された。

報告内容は、「よりよいエンドオブライフケアのためのACP」「看護の未来と訪問看護師への期待」「難病政策・訪問看護師への期待」「コンサルテーション力を高めよう」等のテーマで外部講師を招き、講義後にテーマに合わせて認定看護師としての実践報告を行い、グループワークで交流を図りながら今後の活動の方針を深めるブロックや、「24時間対応を確立しないステーションや24時間対応に不安を感じている訪問看護師は、どのような支援を必要としているのか」について事前調査を行い、その調査を基に認定看護師としての支援のあり方について意見交換を行うブロック、また、「アドバイザー派遣や個別相談会」・「看護協会主催訪問看護基礎研修の講師」、「イギリスで学ぶスコットランド認知症ケアの視察」など、各々の活動を共有し、今後の展望を明確にしていくブロック、「経営について正しく学ぶ」や「特定行為を理解する」などをテーマに訪問看護認定看護師が講師となり講演をするブロックなど、実に多岐に及び、前年度以上に活性化していた。

本年度は年間スケジュールの提出が全ブロックから実施され、そのことにより、各ブロック運営において年間計画の意識づけにつながったと考えられる。また年間スケジュールの提出により、次年度における、各ブロックでの問題点や課題を9ブロックの枠を超えて解決するための提案がされ始めており、更なる活動内容の質向上につながると考えられる。

交流を通して他の訪問看護認定看護師の活動を知ることが、訪問看護認定看護師一人ひとりが、認定看護師としての役割である「実践・指導・相談」をより効果的に担い、地域特性に沿った新たな自分の活動への活性化の契機に繋がると考える。また、研究活動支援担当部門と協働することで、自らも研究活動に着手し、知見を関連分野の学会等学術集会で多くの訪問看護師に発信し、教育・研究の場で活躍する人々との交流や情報交換をすることで、新たな視点に気付き、広い視野を持ちより効果的な実践につながると考える。更には研究成果が、政策提言等の根拠になって発展していくことを期待している。

今後、当協議会の取り組みのひとつとして掲げている、地域住民や多職種を対象とした地域向けの研修会を各地域のブロック活動と連携を図ることで、訪問看護認定看護師としての活動の活性化に繋がり、認定看護師の存在が多くの人々へ周知していくことを期待している。さらには、そのことが、疾患や障がいを抱えながらも、地域で暮らす人々にとって、より豊かで安寧な日々を支える一助になれば考える。

ブロック活動支援担当理事

鈴木 志律江

平野 智子

2 研究活動

研究活動支援事業は、従来の研究助成を改め、2016年6月4日の総会において本会の事業として承認された。

協議会における研究活動は、認定看護師自らが高度実践の質保障や活動の場の拡大に取り組み、看護の質向上を図ること、国民の健康維持・増進のための政策提言を行い、その実現に向けて活動することを目的としている。

運営に必要な①研究活動運営要綱、②研究活動募集要項、③研究活動支援ガイドラインが2016年に作成されたため、現在まで研究活動の募集から採択の決定、研究開始・報告まで一連の支援が確実に進めるように整備され、また、毎年の総会や日本訪問看護認定看護師協議会交流会にて研究支援募集の概要説明とエントリーの呼びかけを行っていることで、研究活動支援も周知されつつあると考える。

2018年度は近畿ブロックから申請されたテーマ、「専門・認定看護師事例検討会・滋賀の取り組みと課題」が採択された。これは専門看護師・認定看護師で事例検討会を通して、専門・認定看護師の継続教育の場となり、看看連携を促進し、地域包括ケアシステムの促進をはかることと各施設で専門・認定看護師がロールモデルとして役割意識を強化することを活動目的とし、2018年11月の協議会交流会にて中間報告がなされた。

今後も1人でも多くの訪問看護認定看護師が研究に取り組み、学会等で実践者として発表していくことにより、訪問看護がより可視化され、訪問看護認定看護師に対する評価や今後の地域共生社会の実現に向けた期待も明らかになると考える。

次年度に向けて今までの研究活動支援の内容を見直し、申請書の整備を行った。また、研究の効果と協議会への還元を期待して募集は1件の支援とした。さらなる研究内容の充実に期待したいと考える。

研究活動支援担当理事

大友 史代

佐々木 ゆかり

3 その他の活動

(1) 実態調査

訪問看護認定看護師協議会の交流会などで、皆さんがそれぞれの地域で活動をしている現状を知ります。新しく学んだことを自施設に戻ってから取り組みをするなど、常に向上している訪問看護認定看護師協議会となっています。そこで、訪問看護認定看護師のいる訪問看護ステーションとそうでない訪問看護ステーションでは、何らかの差異があるのではないかと考えました。

2018 年度から、訪問看護認定看護師と訪問看護師との違いを明らかにすることはできないだろうかということで、アンケートを実施しました。調査をしていくうえで、大阪府立大学院看護学研究科の岡本双美子様の協力を得ながら、取り組みました。

調査の目的は、訪問看護師認定看護師と専門看護師、訪問看護師の在宅看護実践と多職種連携の特徴を明らかにし、在宅における訪問看護師間の役割分担など在宅看護の質の向上に向けた検討を行う基礎資料とすることです。

現在さらに分析を深めているため、現時点での報告を中間報告という形で、ここに掲載させていただきました。この調査結果が訪問看護師認定看護師のいる訪問看護ステーションにとっての新たな加算に結びつかないかも考慮しながら、更なる分析を深めてまいります。

アンケートに答えてくださいました方々に、感謝申し上げます。

実態調査担当理事

大橋 奈美

3 その他の活動

(2) コンサルテーション事業

コンサルテーション事業は、全国の訪問看護ステーション事業所や、訪問看護師が地域包括ケアシステムの充実のためには、どのように取り組んだらよいかを相談できる場所が必要だとの多くの意見により事業化しました。そのためには、訪問看護認定看護師の知識や実践を、地域に求められる事業所となるため悩んでいる仲間と方策を一緒に考え解決策が導き出せるような支援ができればと考え実施しました。まず、初年度として、プレのコンサルテーションの希望事業所を選定しました。PR方法は、訪問看護認定協議会の交流会や訪問看護サミットなどで紹介し、各ブロックでの活動の際に周知募集を行いました。

今回、応募は、地域的には北関東ブロック1件、東海北陸ブロック2件、近畿ブロック1件、九州ブロック1件の5件でした。コンサルの内容としては、新卒看護師教育について、訪問看護ステーションの多機能化、重症心身障がい児・者のデイサービスの設立など、多岐にわたりました。その内容を検討し、対応できる訪問看護認定看護師のマッチングを行い、コンサル方法の統一のため会議を持ちました。実施後、相談者からは、「ナーシングデイの設立方法の丁寧なコンサルテーションを受け、今後の進むべき方向がわかりました。」「新卒看護師への教育体制に悩んでいたがいろいろ詳しく教えてもらい大変参考になりました」等の声があり、大変好評でした。

このコンサルテーション事業は本年度初めてスタートしたのでこのプレのコンサルテーション事業にかかわった認定看護師が皆で再評価して、ぜひ次年度の繋げていきたいと考えます。また、3月17日には、コンサルテーション事業の一環として、「ナーシングデイサービスに見る訪問看護ステーションの多機能化への取り組み」についてのミニセミナーを試験的に行い、次年度は外に向けて開催したいと考えています。初年度の今期は目的が達成できたが、来期はもっと件数や内容についても充実させて取り組んでいきたいと考えます。

コンサルテーション事業担当理事

野崎 加世子

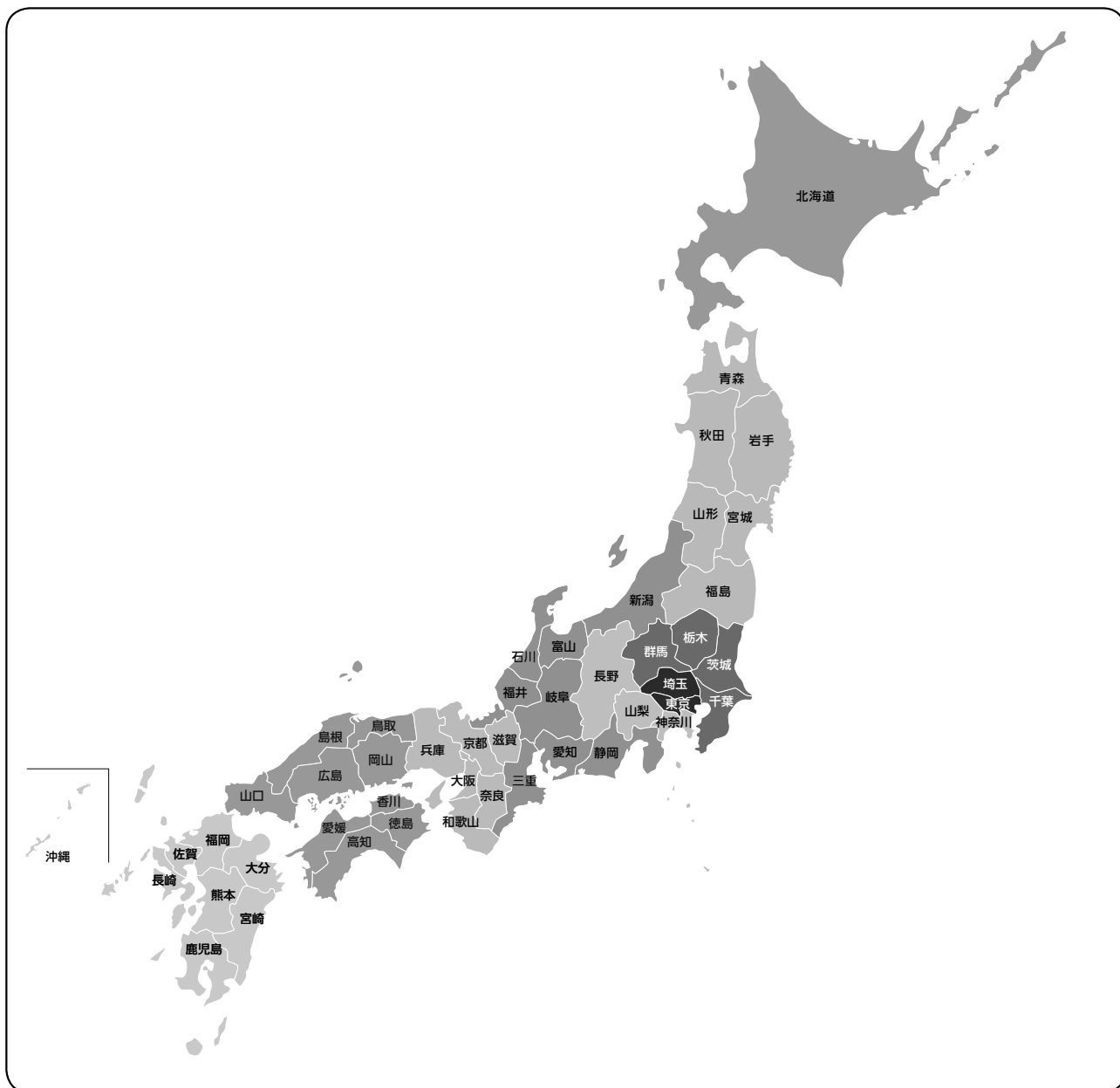
1 会員数及び9ブロック図

(1) 2018年度会員数(2018年2月現在)

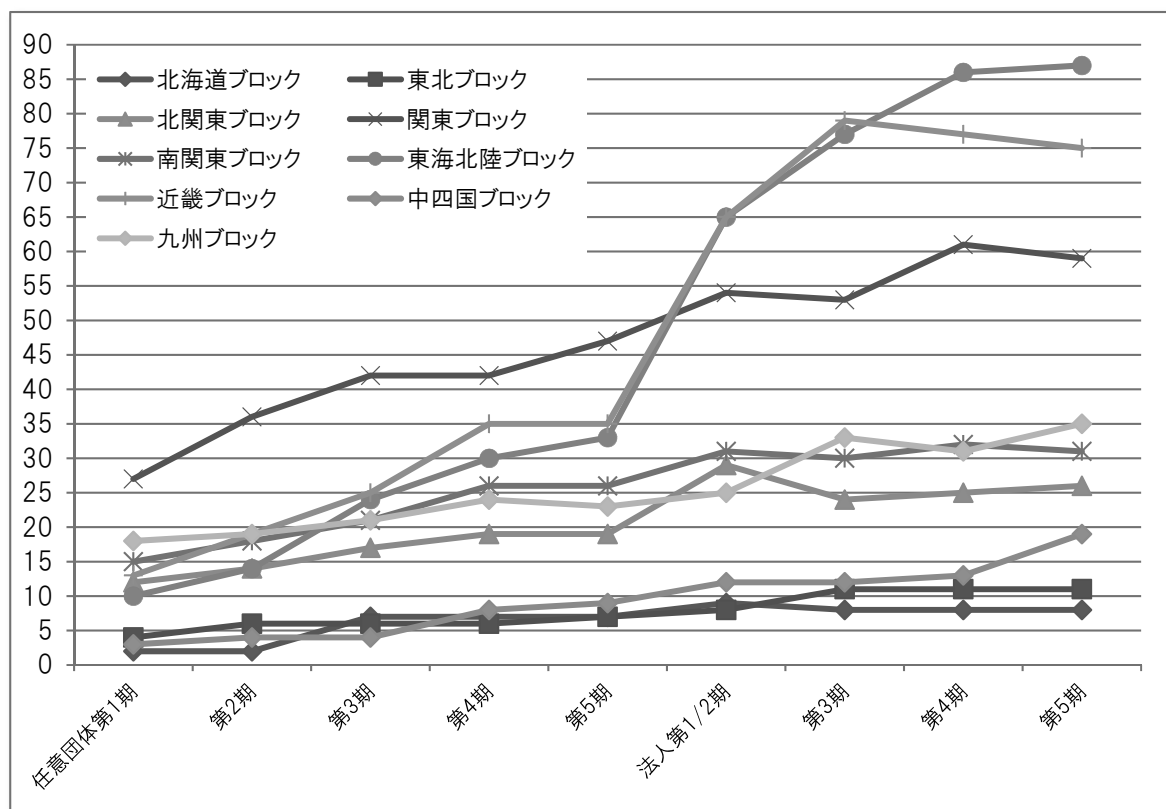
正会員 352名

賛助会員 3名

(2) 一般社団法人 日本訪問看護認定看護師協議会における9ブロック区分図



(3) ブロック別会員数の推移



2 理事会・事務局名簿 (ブロック順・敬称略)

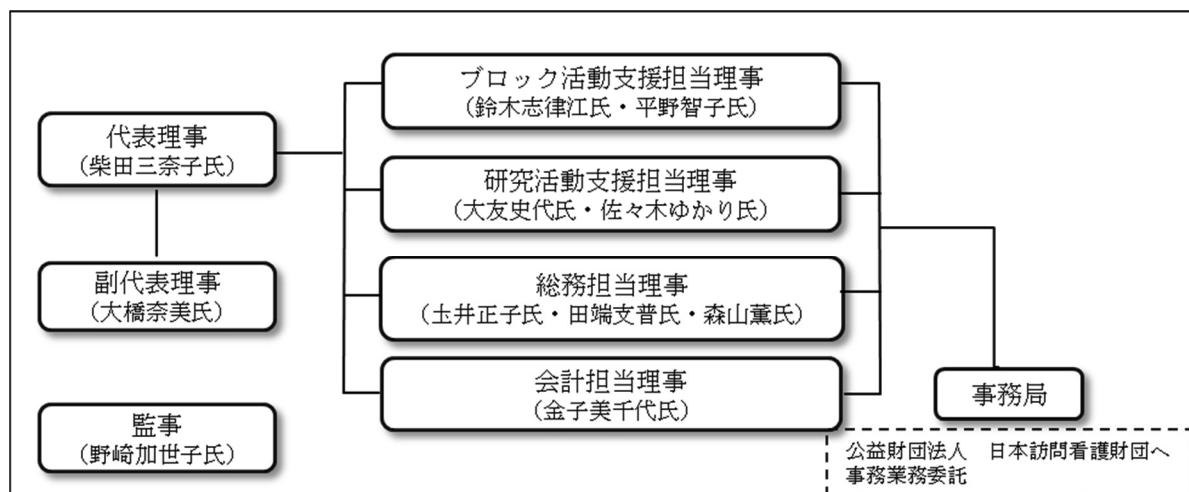
[理事]

代表	柴田 三奈子	株式会社ラピオン	山の上ナースステーション	代表取締役
副代表	大橋 奈美	訪問看護ステーション	ハートフリーやすらぎ	管理者
	土井 正子	一般社団法人	北海道総合在宅ケア事業団	参事
	大友 史代	一般財団法人	温知会会津中央病院	在宅事業部
	佐々木 ゆかり	船橋市医師会	船橋市在宅医療支援拠点	ふなぼと 総括者
	平野 智子	特定非営利活動法人	訪問看護ステーションコスモス	副所長
	鈴木 志律江	一般社団法人	鶴見区医師会	在宅部門
	田端 支普	訪問看護ステーション	ハートフリーやすらぎ	主任
	森山 薫	広島赤十字・原爆病院	訪問看護ステーション	所長
	金子 美千代	鹿児島大学	医学部保健学科 島嶼・地域ナース育成センター	特任講師

[監事] 野崎 加世子 社団法人 岐阜県看護協会 訪問看護ステーション 統括所長

[事務局] 公益財団法人 日本訪問看護財団 常務理事 佐藤 美穂子 村田 由香里

3 理事会組織図



4 理事会及び総会等の開催

(1) 理事会

事業推進の為、全3回開催した

5月・8月・2月

(2) 理事・ブロック長合同会議

ブロック活動の活性化を図ることを目的とし、全2回開催した

6月・2月



～理事会風景～



～理事・ブロック長合同会議風景～

(3) 総会・交流会の開催

1) 総会 「2018年度(第5期) 一般社団法人 日本訪問看護認定看護師協議会 総会」

日 時：2018年6月2日(土) 13:00~18:30

会 場：CIVI 研修センター新大阪東 「E604」

出席者：203名(内訳：本人出席者76名 委任状127名)

本年度も日本財団様からの助成を受け、昨年以上に活発な活動が行えるよう事業計画を立てた。これまで協議会は会員の自己研鑽を主として活動してきた。法人化して5期を迎えた今、これからはその力を地域に向けて行くこと、また、団体として独り立ちできるよう事業の柱をしっかりと立てることを目的とし、本年度の事業計画を発表した。

そして本年度より認定更新申請時のポイント申請が出来るような研修会を企画し、実施した。



定時総会・同時開催研修会プログラム：

時間	プログラム
12：55～	オリエンテーション
13：00～	【2018年度 第5期 定時総会】
13：30～	<p>【同時開催研修会】</p> <p>地域共生社会の実現に向けた新たな訪問看護認定看護師の役割 ～ダブル改定を実践に活かすために再考しよう！～</p> <p>『2017年度 訪問看護認定看護師 更新申請の実践報告』</p> <p style="text-align: right;">講師：舘 正恵氏 (近畿ブロック・帝人在宅医療株式会社 泉訪問看護ステーション)</p>
14：00～	<p>『平成30年度 診療報酬・介護報酬同時改定説明会 ～訪問看護認定看護師の質の向上を目指して～』</p> <p style="text-align: right;">講師：野崎 加世子氏 (東海北陸ブロック・岐阜県看護協会立 訪問看護ステーション高山)</p>
15：00～	<p>グループワーク</p> <p>『平成30年度 診療報酬・介護報酬の同時改定を實踐に活かすために』 (途中10分間休憩を予定)</p> <p>発表・意見交換</p>
17：40～	まとめ
18：10	終了・アンケート記入・修了証の発行



2) 交流会「一般社団法人 日本訪問看護認定看護師協議会 交流会 2018」

日 時：2018年11月10日（土）17：00～19：10

会 場：ベルサール新宿グランド 5階 コンファレンスセンター 『ルーム E』

参加者：95名



2015年より定例化した11月の交流会は今年で4回目となり、本年度も無事に終了することができた。会員数の増加と比例して参加者も増加傾向にあり、今年は初回から比べて31名増の95名参加し、100名参加が目前となってきた。

研究活動報告：今期研究活動中間報告 訪問看護ステーション 齋藤京子氏（近畿ブロック）
講 演：「みんなどうする？新しい訪問看護認定看護師制度」

聖路加国際大学 教育センター 認定看護師教育課程
訪問看護コース主任教員 佐藤直子氏

グループワーク：新しい認定看護師制度どう考える？どうしたい？

交流会のテーマはタイムリーなテーマであることを条件とし、会員が今知りたい、今話したいことをテーマに掲げている。今年はまさに、認定看護師制度の再構築がなされているところであり、様々な情報の中で揺れ動いている時期であったため、これをテーマと定めた。

聖路加国際大学の佐藤先生の導きにより、会員それぞれがモヤモヤしている気持ちを吐き出し、整理し、自分はどうしたいのか？を自問自答する大変貴重な時間となった。参加した方からは、短い時間だが大変有意義なディスカッションができた、特

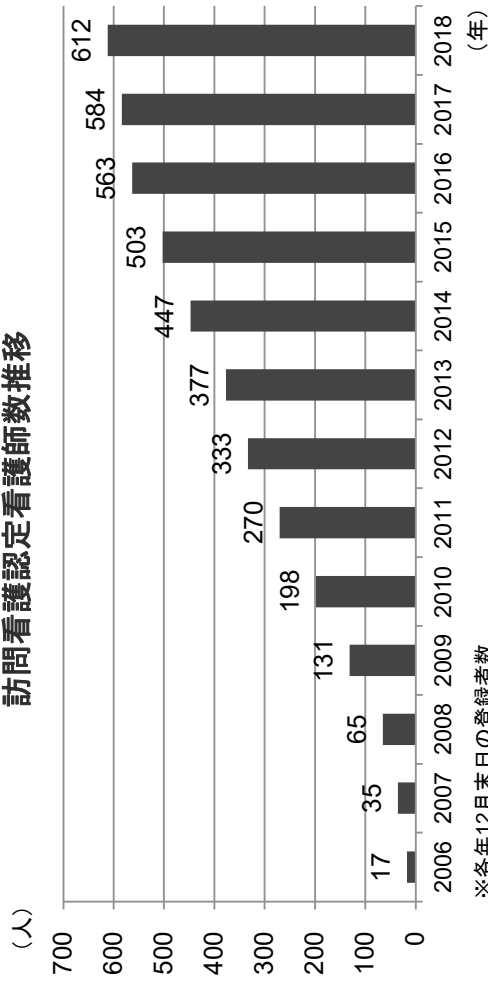


定行為についての色々な考え方があったのが分かった、今後どう動いたらいいのか考えることができた、訪問看護認定看護師として団結できたと感じうれしくなった、といった意見を多数頂くことができ、今年も好評であった。このように、同じ資格をもつ仲間と話しあい、思いを吐き出す機会は本当に大事だと思うので、引き続き有意義な交流会になるよう企画をして行きたい。

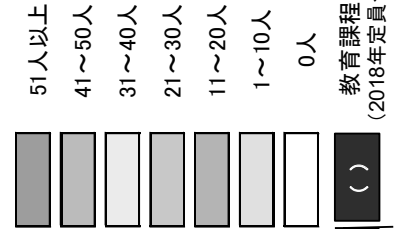
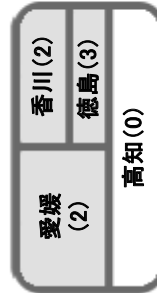
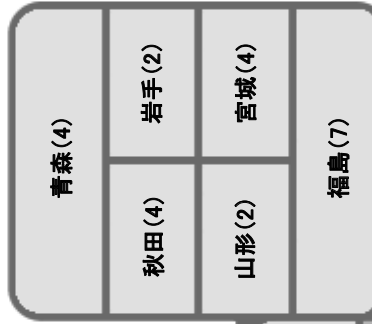


訪問看護認定看護師数 612名

訪問看護認定看護師数推移



※各年12月末日の登録者数
2018年については7月の登録者数



1 (30)
1 (林講)

1 (20)

2018年度日本財団助成事業 訪問看護認定看護師による自主的活動の強化事業報告書

2019年3月31日 印刷・発行

発行 一般社団法人 日本訪問看護認定看護師協議会

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-8-2 日本看護協会ビル 5階 公益財団法人日本訪問看護財団内

T E L 03-5778-7008

F A X 03-5778-7009

印刷 株式会社サンワ

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 2-11-8

● 記載事項の一部または全部について、許可なく複写・複製することを禁じます

